

PAPERS OF PVM

37

自昭和六年十月
至同七年一月

滿洲事變

善後措置關係

直接交涉關係

1—231

此乃多事
其始也
其後也
其終也
其始也
其後也
其終也

昭和六年

幣外務大臣

南京十一月三日午後
本府十二月一日前着

重光公使

第一三五五号一

二十日顧維鈞、面會同氏新任、對答、交換、

換、日、後、情、局、関、大、要、左、通、應、答、

一、先、雙、方、リ、重、大、な、兩、國、一、関、係、に、對、ス、兩、國、一、立、場、ヲ、立、

テ、日、ハ、其、際、本、條、ハ、日、本、側、一、意、向、ハ、三、三、迄、金、郵、院、

表、示、シ、居、通、リ、二、日、且、我、政、府、ハ、今、後、新、日、十、七、街、交、

リ、見、出、為、最、善、一、努、力、ヲ、盡、シ、日、中、意、向、ヲ、以、テ、貴、

下、カ、当、地、ニ、於、テ、實、業、佛、三、公、使、ヲ、通、シ、日、本、政、府、

松本記錄

昭和二十五年十月
遺族より提供を受く

二十日、錦州より山海関へ、直ぐ中土地帯へ設置せん
ト云、提案より受諾せる、関の細目より貴州地方官憲
より、現行の、既に必要なる、刻今より、發給すト云
右、趣きより、敢て昨午の、上村より、亞細亞司考へ
通し、貴方へ通報せし通りなり

ト述へり
對し

右、自分へ提案云々、付て、稍行違ひり、説明し、要ス先
米、結局、付て、利害關係、有る、各國、意向、常
徴、必要なり、認、メ、三、四、日、夕、当地、於て、英、米、佛

公使、對し自今ヨリ中立地帯設定及其保障、付各本國政府ノ意見ヲサウインドスル爲認シタル事ヲ明瞭ニ右ノ一ヶ國ヨリト既ニ回答ニ接セム他、一ヶ國ヨリハ存ニ迄回答ニ接セズ然レモ是右ト行違ニ施降其ヨリ報告ニ依レト聯盟ニ於テ右ヲ取リ上ケル事トナリ理事會ハシナセリ右中立地帯設定ヲ決議シト其ノ右地帯ニ中立國軍隊ヲ入ル趣旨ヲ以テ先中立國ヲオブザーバーハシテ派遣シ貴我雙方ヲ以テ右ヲオブザーバーハシト聯絡シテ一切ヲ處理スルトトナリ右民國側ト右決定ヲ象徴シ日本側ニ

之、同意せしむる事ヲ希望シ居ん次第ナリ

二、依テ本使ハ

貴下ノ中々地帯設置ノ提案ハ、嘉業ニ於テ重トシテ佛國

大使ヲ通シテ極メテ具體的ニ十廿レ日ノモトニシテ右ノ

如キ行達アリキトハ其日了解ニ當リテ所ナカシレハ

宛ニ南幣原大臣臣ハ此困難ナル局面ニ對シ何等カ展開

ノ端緒ヲ得度ナリ又ハ支ノ大局ニ鑑ミ且人道上ノ見地ニ

於テ此ノ新ナル衝突ヲ見サシコトヲ希望シ尚又右ノ提案不

カ民國政府ニ重キヲナスノミナラス張副司令ノ信任ヲ

擴トル居ン貴下ヨリ十廿レ日ノ次申上ルヲ以テ五ノ要請

ハ全會一決ヲ要シ日本現事一參加ナリシテ現事會ト
シテ何等行動シ得ルハ御存知ノ通ナリ又右提案中
中立國軍隊ヲ中立地帯ニ駐在セシムルハ自
ノ承認セザル所ナリハ本側ハ今回一出来事ニ極メテ
重大ニシテ後報ナルハ勿論ナルニ畢竟東洋ニ於テ見
弟喧嘩ニ過キスハ支ノ關係ヲ處理スルハ支ノ間ニ於テナ
クハリテ又他人ニ對シテ他人ヲシテ仲介セシムルハ其必
要ナリ且右支那側ニ對シテハ不利義ニシテ即チ
東洋ノ為ニ決シテ起ラヘキ所ニナラズト確信シ居レリ
此正義上ニ對シテ右提案ナルハ一付年七第三者ノ介

入せん部分ハ日本ハ賛意ヲ表スルヲ能ハス然レ前述べ
新ニ衝突防止ノ貢獻スルキ中立地帯ノ設定ハ異
ナリ右カ貴下ヨリノ提案トシテ既ニ東京ニ現レヨ
幣原大臣ハ幾多ノ困難ヲ拂シテ之ヲ妥議セラル
ナリ

右細目ノ點ニ付テハ貴我地手官憲ニ於テ決定スル
ナリ困難ナカレハ

三、顧維鈞ハ之ニ對シ更ニ前記ノ自己ノ立場ヲ繰返
シヨリ上日本側ハ既ニ他國ノオブラザバ
多数
承認シ居ル以テ是非スヤ

トノコトナリニ付

本使ハ

全ク其ノ通ニテ我方ハ如何ナル第三者ニ對シテモ秘密
ニスヘキ行動無ク從テ他國カ視察員ヲ派遣スルハ
寧ロ之ヲ歡迎スルモノナリ我軍ノ行動ヲ監視スルカ
如キ軍事上甚ハ外交上ノ權限又ハ資格ヲ有ス
オダガハハハハ前記ノ主義上ヨリ之ヲ容認スルコ
能ハズ右ハ我方ノ堅固ナル主義ノ問題ニシテ誤
解無キトナラ希望ス

ト說明シ更ニ

ヲ排シテ爲サレタル提案ノ受諾力成立セザルニ於テ
其ノ軍隊ニ對シテ反動作用力如何ナルハ半毛ノ十ニカハ
豫斷スル不能ナク

ト述ヘヨリ

四、顧問昨今ノ報道ニ依リハ日本軍隊ハ理事会ノ提
議等ニ顧ミテ力續ニ後退シツツアルニテヤ

ト述ヘヨリ付

本條ハ

日本軍隊ハ治安維持ノ狀況ヲ見テ自發的ニ後
退スルニシテ理事会又ハ如何ナル即五者ノ意向

二 貴行動ハ左右セシメ錦州方面ニ不安アリ又
 ハ挑発ニ場合ハ何故更ニ兩軍ノ間ニ衝突ヲ生
 ヲスルハ點ハ點誤解ナキ様ニセシメ度
 ト説明セシ
 五、顧維鈞ハ御趣旨ハ了解セシメ付右ハ政府ノ議
 ニ上スニトスヘシ
 ト述ヘリ
 去ル臨ミ顧ハ本日の會議ノ内容ハ相互ニ発表
 ス今日ノ軍ニカクテシ、コーン建前ノ願望シト
 切望セシ本使ハ之ニ對シ本使ノ説明セシ日本政

新刊ノ意向ハ既ニ發表済ニシテ本使ノ言説ハ何等
 新ナルモノニナラス然レ右談話カ本道貴我ノ間ニ
 交換セラルル事實ハ發表セザルコトニ異議ナシト答
 ヘ置ケル家スレ顧維鈞ハ中絶地帯ノ設置即彼等
 出テザリト一點ニ付新聞紙上ニ喧シキモノアリト對シ
 ラ惱メタル如シ從テ右ノ新聞ニハ發表セザル
 事トシテ顧維鈞

昭和二年

南京 十二月 二日 午後
本府 午前

幣外大臣

電光石火

第一三六六号

修電一五五五号之関

顧維鈞二日本使ヲ答訪シ且際右修電中其地

帯ニ関シ本使申入レニ付ハ明日三日外交委員會於

于五相談ノ上區々御返事致ストスヘントノ換指ナリ

ニ付此機會ニ更ニ我方ヲ趣旨ヲ力説シ置テ方然ニ

ヘント云ハ

我々ニ合談ニ付テ新聞紙等ニ依リ輿々惡意傳已

模稜十元幣系外相真意ハ其日の詳細説明
 通新七衛突ヲ避ケ日支間將來ノ光明ヲ得
 為貴下ノ提議下信セヨウ其ノ儘承認セヨ
 次オシテ我軍隊ハ錦州附近ニ向エヨウハ全部引
 揚ケヨウ右鐵道ノ表示ハ支那側ニ對シテ為セヨ
 義勇隊中ノカランテハニシテ和三者ハ他國ニ對シテ
 為セヨヨリハ遠ニ強キ也一ツ右ハ撤収等ノ為ニ為
 セヨハ元一二アス偏ト崩散ノ精神ニ出テヨウ
 付支那側ニ同様ノ誠意ヲ示シ速ニ問題ノ地點
 引軍隊ヲ揚ヘテ出テ日本側ニ答ヘヨウ様印

昭和九年

幣原外務大臣

第七一五号

本官發奉大宛電報

第五八九号

貴電第一五七號之関

松花江航行權確得問題ハ本官ニ於テ毛氣付中居

處ト目下張景惠トノ間ニ江省鉄道問題ヲ

始メ種々ノ地方の問題ニ付商議進行中ト折柄

新ニ本問題ヲ持出ス事ハ吉林ノ熙洽ト全然出場

哈爾濱省賓
十二月三日
三日後發
大橋總領事

ヲ異ニセシ同人ノ苦境ニ陷ルル事トナルハヤニ付今後各
種問題ノ解決ニ同人ノ於テ本問題ヲモ消化シ得ルニ至
リ初メテ指出ス事然ルヘシト思考ス

尚茲ハ日本ノ提携ヲ希望シ居ルモ右提携ハ結局支

那民衆ノ為ニ過キテ決シテ日本ノ傀儡トナリテ國ヲ賣

ルニ非スト一國ヲ侮念ヲ有シ居ル具右議論ヲ以テ当地

排日家ヲ除キテ親得シ今日ニ至ル幾分問題ノ進展ヲ得

シ居ル模様ナリモ未ダ民衆ノ把握充分ニ非ズ

從テ今我方ヨリ種々ノ問題ヲ懇各的ニ押付テ得カ走レテ

御無理御尤ニテ開ク場合ニハ忽チ賣國奴トナリ南洋

多不熱心力無不殘骸的人物トナシ其分り依り依り知方
アリ提起ナシ各線問題例ハ奉天哈爾濱間航路問題
及土地問題ニ付年々先來排日的心當地關係當局者同
意ヲ得難ク様一決意ニテ旁々此際同人ト一折衝ニ先分同
人ト立場及ヲ考慮シヤリ支那民衆ノ心理ニ於テ同人
ヲ活中ニ置ク様努力ノ事將來ノ滿洲政局收拾
上對外及對內的ニ絕對ニ必要ナル事言フモ候
日又然ルニ今我方ニ於テ威壓一方ニ出テ同人ニ於
テ耐ハ切レズシテ旋毛ヲ曲ルニ至ルハ地滿一帯ニ至リ
南滿同様ノ武力ヲ行使スル止ムナキニ至リ無用

手教ト世界ノ興論ヲ刺戟スル結果トナルハキニ付目
下本會ニ於テモ種々苦心シ居ル次第ナリ

昭和六年

廣東省

十二月

三日

幣原大臣

須磨總領事代理

第六七九号一

二日陳安仁

顧維鈞カ外交部長代理ニ任命セリ

其ノ後直ニ重光公使ト會見ヲ遂ケルハ各ノ新聞

報道ヲ引用シ日本ハ南京ト一國ニ滿洲問題ニ関

シ詔令ヲ開始スル手筈ナリヤト心配氣ニ尋ネルニ

付政府ヨリ右様ノ報道ニ接シ居ラスト輕リ答へ一

体統一政府實現後、顧ノ地位ハ如何ニナルハナト

問ヘルニ左ノ通話セリ

一、願ハ自分等ノ得ル情報ニ依リ自身ハ就任ヲ欲ス
 甘シシモ樂々並妻ノ勸ニ依リ應諾シタル趣ニテ何
 レ自分ニ引継グ心組ナル由ナルハ何レモ彼ハ党外一人
 物ナク何等カノ方法ヲ以テ「エリミネー」トスル様ナ
 リ現極秘ナル汗精衛ニ於テ執操ス居ル所謂
 請願學生等カ何時暗殺等越軌行動ニ出ルハ無事ナ
 ク保セズ殊ニ為政府部内ニ於テ此ノ所謂滿洲中
 立地帶殺害ノ提案ノ如キハ結局鉄道附屬地内ノ日本
 軍ノ實勢力ヲ所謂中立地帯ニ擴充セシムル方針ナ
 リトテ恒朝杞ノ如キ嚴強ク反對シ居ル兎モ角彼ノ措

莫不曰金部取清不暇

一序、自方外交部長の場合一方針ハ既ハ

御詔ニハ通リタルカ尤モ之ハ一條問題ハ如何ニ

モ難關ナト洩シ居タリ之カ實行案ニ付胡漢民

ト協議シ結果滿洲問題ハ現下ノ最重要ナル點

轉シ以テ其武力ヲ河南ニ擁シ機會ヲハ何等カ

自分等ノ政策ニケケテ附ケ再ヒ主席ニ舞臺ヲントス

ハ底意ハハハカ故ニ先ハ自分ハ日本ト一問ニ下

交渉ヲ進メ略合意ノ骨子ヲ得タル頃ヲ見計ス

大體其ラインニテ外交部長トシテテリクレイ

レヨシヲ發表シ之ニ對スル輿論ノ歸趨ヲ見極メ若シ
カ容レラレザレハ自分大ニ犠牲トナリテ辭職シ以テ廣
ノトミスイトスル政府自體ニハ影響ヲ及ボサザシ
ム考テ

右ニ付テハ上海ニテ更ニ汪トモ石籙ノ要旨ニ大體此
イシハ變更無カハ中故ニ掃部大臣ニ對シ自石ト達
急下交渉ニハ中略重光公使ニ對シ方信云々ヲ達

南京 十月 四日 院

部 外務大臣

金光 八 倭

第一五七六号一

往電 第一五七六号二関

三日 顧維鈞、金易、錦州中立地帶設置問題、関

物問、より交渉、有、る、結、局、何、等、結、論、に、達、せ、る、否、

、經、手、の、應、答、要、領、を、通

一、先、に、顧、維、鈞、に、本、問、題、に、付、き、ハ、昨、日、迄、數、回、外、交、部、員

會、に、於、て、協、議、ヲ、為、シ、タ、ル、カ、民、國、側、ハ、其、場、に、関、シ、テ、

面、に、付、御、了、解、ヲ、得、度、ト、ナ

本問題に付貴公使ト直接交渉ヲ為シテウヤリトノ新
聞情報ニ基キ上海方面ヨリ續々激烈ナル反對陳情
傳テ政府ニ付外交部ハ因却ト立場ニテリ（右ノ為持テ）
意見交換ニ惠影響ヲ及スモトヤリテハ不可ナシハ
貴公使ノ承認ヲ得テ右ノ陳情ヲ報道ヲ承認シテ
シトナシテ付本使ハ我々ノ場合ハ結局一般ノ意見
ノ交換ヲ為シ居ルモノナリ特別ノ問題ノ交渉ヲ目的
トスルモノナリ然レドモ一應答ノ公報ヲ為スモトノ承諾
置ナリ）次ニ中支地設定ノ提案ハ實ハ日本ニ對シテ
サレバルモノニヤラスンテ單ニ三國政府ノ意向ヲ知

ル為ニスルナリシカ（トテ前同ノ說明ヲ詳細探述シヨリ）右
提案中民國側ニ於テ最モ重要ナク置リ點ハ日本政府ヨリ三
國政府ニ對シ保障ヲ為スル條件ニヨリ然ルニ右條件ニ付
テモ履行性乏シキモノナリト意見力或ハ政府ニ依リ
表示サレタリカ如キ次第ナリ（トテ略々今日ニ於テハ
右中並地設定提案ハ自然消滅セリト一意見ヲ含ミ
タリ）然ルニ中並地設定案ハ聯盟ニ於テモ審議サレ聯
盟ニ於テ表示セタリ貴公使御說明ノ通一日本
側ノ意圖ニ付テハ報告ニ據リ居ルカ民國側ニ於テハ
直ニ之ニ賛成否ヲ錫命事然ラズ

ト述ハ

本侯ハ之ニ對シ前同親明ノ趣旨ヲ繰返シ尙右提案ハ

直接日本政府ニ為サレ日本趣旨ニ非ストスルニ事實ハ

東京ニ於テ貴下ノ案トシテ幣原大臣ニ示サレタルニ付

カ幣原大臣ハ熟考ノ結果他ノ關係トモ相鉄ノ上ニ大

困難ヲ排除シ此提案ヲ受諾スルトニ決定セラルニ付

リ

右決定ノ趣旨ハ兩國間ニ於ケル困難ナル事態ヲ更ニ惡

化セムハ新衝突ヲ防カントスルニアリ而モ一刻モ猶豫ス

ルヲ憚ルハ事態ニ直面シタルニ付民國側ノ誠意ヲ信

シテ直ニ軍隊ノ撤退ヲ命スルノ手續ヲ取レル次第ナリ目
本軍隊ノ撤退ハ民國側ニ對スル何ヨリノ保障ニ在ハ
第三國ニ對スル身ハソレ如何ナル保障ヨリモ有效ナリト確
信スルモノナリ本條ハ今日民國カ日本ニ對シ同一ノ誠意又
保障ヲ示セルモノナリ即チ錦州ヨリ山海關ニ至リ該處モ
ソレハ中立地帯ヨリ支那兵ヲ撤退サシムルヲ要求
スルモノナリ換言スレバ日本政府ノ趣意ハ新親ノ衝突
ヲ避ケ全局協同ノ端緒ヲ見出サントノ意思ヨリ在
中立地帯ノ設定ニ重キヲ置タセリ云々而モ之ニ對シ必ズ
古ノ保障ハ既ニ軍隊ノ撤退ニ伴フテ其果々如何

一、協定後、直接に、民國側之輸入に、ト修するに、
今日貴方、一親明之儀、ハ、民國政府、力盡、キ、ト、置、カ、ル、ハ、第
五、國、之、對、ス、ル、日、本、一、保、障、條、件、一、點、ハ、趣、ス、ル、カ、若、シ、果、シ
テ、然、リ、ト、セ、ハ、中、立、地、帶、設、定、一、提、案、一、趣、旨、画、單、ニ、示
ス、者、ヲ、引、張、リ、込、ム、コ、ト、ヲ、目、的、一、為、ノ、半、段、ト、セ、ラ、レ、タ、ル、ニ、
ニ、千、新、之、衝、突、ヲ、起、サ、セ、ル、為、メ、ノ、目、的、ヲ、以、テ、協、局、ノ、救、済
ニ、資、セ、シ、ト、ス、ル、一、意、向、ハ、出、テ、タ、ル、ニ、ア、ラ、サ、リ、タ、ニ、一、ト、親、シ、サ
ル、ハ、カ、ラ、ズ、在、ハ、民、國、側、一、趣、旨、ニ、ア、ラ、サ、セ、ル、ハ、
ト、答、ヘ、タ、リ、

二、右、之、對、シ、願、維、鈞、ハ、

事然る悉此也し、
トスル趣旨ハ之亦其御側力同様

キヲ置テ然ナリ、
其御側力綿州附近軍隊ニ對シ決テ

日本軍隊進駐一
行勅及計畫書ヲ為サシ居ルハ

中立國オツサ
ハシ一等シク認ム所ナリ從テ其御

軍隊ニ関テ限リ新衝突一
原因トナルハキモ一在ル

付此一點ハ安
定セラルル然レハ

ト一趣旨ヲ述
ヘタル付

本使ハ之ニ對シ
右ノ御説明ハ已ニ諒ナリ云ハル

モトト思ハル
中立國視察員一報告書下ニ述ヘタル

中如キモ一
等聯想ニ提云セラルトテ承知シ居ル也

一 觀察員ハ如ト異ル報告ヲナストモ知シス

何レニモ身立國人ノ報告ニ付何等ノ故力ヲ認ムルハ日本

側力初又ヨリ拒絶シ居ル處ナリ然レモ錦州ニ於テ支那軍

隊カ逃賊又ハ便衣隊活動ノ策源トナリ其策動を

ハルナガシ式戦法カ何レモ日本駐屯軍ノ撃破ヲ目的トシ

居ルハ事實ニシテ在滿日本軍ハ錦州軍隊ニ付非

常ナル危険ヲ感シ居リ貴下カ錦州軍隊ニ関

シ此席上ニ於テ與ヘラレテ說明カ過去ニ於テ支那軍隊

ニ付實現セラレ居リテ今日ノ如キ事實ノ起リ得

ナリシ次第ナリ何レモスルモ我々今日ノ問題ハ日支兩軍

新衝突ヲ防ク爲錦州山海関ノ地帯ヲ中心トス
ルヤ否ヤノ問題ニシテ日本軍ハ既ニ衝突區域ヨリ引揚
ケ日ハ次第ナクハ撤退サレンコトヲ要求スルナリ日本
軍ハ撤退ハ時期接近ノ際民國側撤退ヲ見越シ
貴下ノ提議承認ノ意思ヨリ行ハレムモノナレハ若シ
此ノ計畫失敗ノ曉ニハ如何ナル反動カ我國論又軍
部ニ起ルカハ豫想シ難キモノナリ日本軍部ハ全ク欺カ
リトノ感ヲ受ケヘント繰返シ事態ヲ明カニシ置ケリ
三、右ニ對シ顧ハ幣原大臣ハ中立地帯ノ提議ヲ新
日本政府ヨリナサレタリトノ連絡ヲ取リサレタリ傷ハキヤ又

民國軍隊撤退七八日本軍隊毛市全部附屬地撤

退スヘキヲテ承諾セラルル中土地帶設定ノ曉布中土

地帶ニ專斷賊等出沒ニ警覺力一ニテハ不足也

合テ如何ナル下ニ古ハキヤ又中土地帶以外ノ滿洲

行政權ハ支那側ニテ建前ナルニ對シテ支那

側ト如何ニ協議セラル御考ナル等ノ質問ヲ指示

自ニ付

本使ハ中土地帶ニ於テ支那軍隊撤退ノ事ハ要

スルニ細目ニテ先官憲ニ依リ適切ニ處理スル

容易ナリ中土地帶設定ノ趣旨ハ雙方力ニ依

入セストノ約束ヲ為スモノニテ日本側ニ主義上之ニ異存
ナシ支那軍撤退ノ對償トシテ日本軍ノ附屬地歸還
ヲ要求スルニトモ右ノ全然問題外ニシテ我々會議ノ
範圍ヲ超越スルモノナリ尤モ日本軍ハ既ニ殆ト大部令附
屬地ニ集結セシ有様ニテ必要缺ク可カラザル以上強勦セ
ザル方針ナルヲ專賊ノ討伐又ハ支那軍ノ挑発アル場合
ハ必勦セザルヲ傷々中立地帯以外ノ滿洲行政ニ関
シテハ無編支那側ニ責任アル建前ナル如何ナリ也
ソ右ハ今日尙混沌タル有様ニテ日本政府ハ先
今日我々ノ議題中土地帶設定ニ依リ漸次定

新に改善の滿洲全般の問題に處理の付貴國に
交渉の着手を乞ふ所へ居り

中立地帯の設定に總ての問題に第一歩として充
分了解をせしむるに述べ置かす

四、願ふに對し日本政府の御意嚮を充分判明し

るに付更に外交委員會より説明をせしむるに述べ

るに付本使に重なる本問題の意味を重要なる點

を指摘する所あり

五、本日午餐談話より得たる印象に依り願ふ中立地

帯設置其他の付日支間直接交渉を開始せしむ

1 印象ヲ外部ニ與フコトヲ恐レ居ルト共ニ三日學生
1 多數外交部ニ押シ掛ケルヲ本問題ニ關聯シ何
等ヤ日本軍ニ撤退スル其行動ニ關シ本使ヨリ宣明
ヲ取付ケテ試ミヨ
又彼等中立地帯ノ設置ニ係リ滿洲ノ他ノ部分ノ自
日本ノ支配下ニ臨ムコトヲ惧レ滿洲ノ行政權ニ付テ
ニ議論ニ觸ル願自ラ接收委員會ノ委員トシテ滿
洲接收ニ關スル問題ニモ觸レント各ノ氣配モ見受テ
スレヨリ本使ハ常ニ中立地帯ノ設定カ全局ノ問
題ノ好惡ニ大ニ貢獻セルハキヲ仄カニ以外中立地帯

設置以外ノ問題ニ及ブトテ避ケル次第ナリ

幣原外務大臣

南京

五月十四日午後

重光公使

第一三四一號

今同、南京來訪、依、中立地帶設置問題、處理

ハ勿論、コト、願維鈞ト、往後、依、外部、對シ

幾分、二、三、聯盟其他、於、我方、空氣、一、改善、曾

コト、ト、考、ハ、日、次、第、十、力、他、方、通、接、交、渉、云、々、ハ、今

日、一、事、然、レ、於、今、我方、言、急、々、必要、先、無、レ、且、又、其、那

側、於、今、廣東政府、一、關係、ハ、勿、論、張、學、良、一、地位

動、機、等、一、形、勢、之、鑑、三、假、令、先、方、之、於、予、之、欲、ス、ト、云、々

今日直之應ふハ我方準備一都合ニヤリ一考ヲ要
スト考ヘンルニ據ル柳田現事会統了後ハ成ルヘリ
早目ニ一旦南京ヲ引揚グニ意向ニ付代ノ各國公使
悉クリ大體同様ノ行動ニ出サシ模稜ヲ未使
於テ何等心遣フハキ事項ナリハ早目ニ御覽新
請

昭和六年

北平 十二月五日 午前發

滿蒙外務大臣

矢野參事官

第七一六号一

貴電第一一七号、陳

四日午後十時、會見

先、本官より冒頭貴電、御趣旨、第一、統一

是、良ハ直、唯今御統制、貴提案ハ先同、案

ト大ニ相違アリ、錦州政府、限内撤退ハ先同、案

ニ無カリシ、ハ非、ト云ハ、付本官ハ先同、案

ハ錦州政府、云ハ、文字ハ無カリシ、趣旨ハ、地方府

一、ミラ殘の撤退スヘントナラセ一ニシテ錦州政府を撤退
退セラルヘキモノナリト説明セリ

二、次々學良ハ先回会見後南京政府ヲ本件ハ南
京ニテ取扱フ付北平ニテハ暫ク之ヲ成行ヲ見ラセシト
一命令ヲ發シ居ル處今回一案ニ錦州政府ノ撤退
ヲ考慮スレ居リ尙自分トシテハ南京政府ヨリ許可無キ
限リ責任ヲ以テ御説ニ傷ムル處無クナリ南京ニテハ
重光ハ使ヨリ顧外交總長ニ説クレリ由ナルカ何故ニテ
繼續セラルサルヤト述ヘリ付本官ヨリ元來錦州方面
ニアルハ貴副司令ノ軍隊ニシテ北支方面ノ實際者

主貴副司令より又本件ノ成否ハ貴副司令ニ直接
ノ利害關係有等ノ願ニ幣原大臣ニ於テ本官ト貴
副司令直接ノ利害關係有等ノ願ニ幣原大臣ニ於テ
本官ト貴副司令トノ間ニ地方の問題トシテ取扱フ事實
際的且有親ナリト考ヘラレタリ。本官來訪セル以テナリト懸
念州セル處學長ハ然ラハ單ニ友人トシテ御話スヘシト
以下ノ通交談セリ

三、我方案ニ関シ、問（不良）答（本官）

（四）問、先同御話セル匪賊討伐ノ為軍隊ノ一部ヲ殘
留スルニ付貴意如何

(答) 右ハ警察官ノ係ニ入ル警察官ノ數等ハ俄然
協定ニテ取極メラレシ

(四) 日本兵撤退ニ附帶スル條件ニ付テハ自分ハ寧ろ
之ニ入ル日本側ニ何等カ隱レヨリヨリ目的ニ付テハ之ヲ推ス
ヤト思考ス

(答) 日本側ニ何等隱レヨリヨリ心無ク右ハ別ニ日
本軍力奉天方面ニ撤退セヨ實狀ニ見テ之ヲ明カナ

(ハ) (附) 日本カ誠意ヲ以テ韓法實行方ニ付目下
錦州方面ニ在ル外國武官ノ利用方如何

(答) 一般滿洲問題ト同様本件ト對シテハ之ヲ利用

問、直務安海ヲナスヘリ第五者、介入又ハ保障等不
必要ナル先回御報告通りナリ

(二) 問、自石、不審、堪ヘキハ錦州路府撤退後、大
地縣政府、歸屬如何ナリ

四、次、學長ハ自分トシテハ此、際貴方ト胸襟ヲ

開キ兩國ノ存亡ニ思フモ、之カ為メハ貴方ニ於

テ自分ニ之ヲ為シ得ル様仕向ケラレトテ、敢テ此

ノ際、只、一方的ニ貴方カ利益ノミヲ得、自分ハ東三

省全部ヲ失フ事トモナシハ貴方ヨリハ敵視セラル

民、早ハ國賊扱ヒラレテ、自分ハ立場全然無キ事ナリ

又ト言ハルニ付本官ハ本件ハ前述ノ如キ地方の問題ニ
テ当然副司令。然レ全權トシテ我々トモ
然レケル場合ニハ多少國民一批評ハアルベシ一面之派
リ副司令ノ地位ニ於ケル地位一安固ヲ計リ得ヘキ度ニ若
シ然ラサル場合ニハ前同御執セム通リ此ノ案カ問題トナ
サレ以副ニ比シ
事態ノ惡化計リ知ルヘカヲサレモ一アリ副司令ハ國民
非難ヲ受ケラレムト勿論凡スルモノヲ矢ハルハ慣例ナリ本
件ハ實ハ副司令ニ取リ死活問題ニテ此ノ機會ヲ
巧ニ捉ヘラレムトハ副司令ノ為ニ絶對ニ必要ナルハ

會見一人要以上、如、古、本、官、一、觀、察、一、依、ハ、學、良、我
方、之、何、ト、力、同、人、一、將、來、之、ヲ、モ、考、慮、シ、ヤ、サ、甘、ん、限、ハ、此、際
國、籍、ヲ、押、却、リ、相、當、一、責、任、ヲ、以、テ、本、件、之、當、ハ、一、意、志、ヲ、
十、二、見、受、ケ、ラ、ル、明、リ、以、後、更、ニ、湯、爾、和、等、之、側、面、運、動、ヲ、試
ミ、ハ、哈、ル、カ、政、府、之、ハ、飽、迄、綿、州、政、府、機、退、ヲ、主、張、セ、ラ、ル、
意、志、ナ、リ、ヤ、又、地、方、^縣新、政、府、一、歸、屬、如、何、等、之、付、何
所、儀、御、回、答、リ、度、ヲ、尙、甚、ク、學、良、一、將、來、之、對、シ、帝、國
政、府、之、於、何、等、カ、好、意、的、考、慮、ニ、テ、モ、加、ヘ、ラ、ル、ハ、半、年、新
明、也、ハ、學、良、一、觀、望、上、有、教、カ、ト、モ、思、ハ、ル、

南京 6年十月八日 後著

部系

上村 金平

第二二二號

入船、中央、中央日報、顧維鈞、在上海、友人、宛、同答

電報、ヤ、エ、一、ヲ、發表、セ、ル、カ、其、大、意、左、通

(一) 錦州、東北、全体、ノ、存、亡、ノ、關係、ヤ、ル、以、今、我、國、ハ、一、面、受

力、ヲ、準備、シ、テ、防、衛、ス、ル、ト、其、他、面、外、交、上、ノ、手段、ニ、依、リ

國、土、保、全、ヲ、期、シ、ウ、ツ、アリ、先、月、二、十、日、頃、日、本、軍、錦、州

ニ、迫、リ、タ、ル、際、施、降、基、ヨ、リ、聯、盟、ニ、對、シ、緊、急、處、置、ヲ、要

求、セ、ル、ト、同、時、當、地、ニ、於、テ、ハ、莫、米、佛、ハ、使、ニ、對、シ、日、本

軍ヲ此上前進セシメサル様保障方交渉セカ在る日本
軍ヲ制セシメタル苦心の外ナラズ今日日本軍ハ既ニ退キ日
本ニ解盟ニ於テ我軍隊ヲ後退シ支那ノ一切ノ行政
及地方秩序維持ノ警察ハ從來通職ヲ執ラズ
事ヲ要知セカ我々ハ本国軍隊ノ撤退ヲ承認ス
目下ノ争點ハ此點ニアリ日本所謂錦州^中立地帯問題ハ
雙方ノ軍隊撤退問題ナル是れ我々ハ錦州ヨリ未ダ一步
モ撤退セシメず日本軍ハ鐵道附屬地外ニ後退セカルヲ以
テ移動稍緩和セカ國民ハ此事情ヲ解セカルハ遺憾
ナシ

（一）天津地方當局及紳商ハ前條一三回ニ對シ日本軍ノ
暴動ニ對シ各國官民カ日本租界附近數百米ニ迄
域ニ於テ臨場ニ治安ニ維持ニ協助セシ事ヲ希望スルカ各
國ハ火中ニ接スル事ヲ恐レ米日談合ハ自鼻附カス
（二）重光公使ハ三回外交部訪米日本軍ノ撤退ヲ説
明シ我軍ノ錦州撤退ヲ希望セルカ余ハ之ヲ拒絕セ
ト共ニ我方ノ見解ト立場ヲ説明シ且右談話ハ交渉性
質ニアラザル事ヲ申明セシ處同公使モ之ニ同意シ其ノ來訪ハ
單ニ日本側ノ立場ヲ説明セルモノナリト述ヘリ要スルニ左
那ハ米日日本ト絶交シ居ラザルヲ以テ日本公使ノ外交部

來訪ヲ阻止スル譯ニ行カズ來訪セシ以上實ニ發言ヲ阻止スル
能ハズ既ニ發言シ日本側ニ至テト見解ヲ説明スルニ於
テハ余モ亦我方ノ所見ト觀察ヲ親シキ事ヲ得ズ然レ
此ノ體ニ誤謬カ多シヤリ甘ん事ハ極メテ明白ナリ云々

北平 十二月十日 鐵著

秘書外務大臣

矢野參事官

第七五号一

貴電第一二五号之附シ

一 依電第一二五号字良側其後、措置振ヲ探ハ九日

在島田ヲ湯ニ会见セシメ日ニ在湯ハ其後副司令ト内談

機會無キニ副司令ハ責任感一強中人故一旦言ハ知セシ上

ハ必ス其通り実行スヘシ尙本件提案至レハ終極ニ付南

京ニ附合セリニ在总体参事官一御教ト一改正ニ事判明セリ

ト云レ由

二、冒頭貴電本十日朝接到也。付直、渴、御新、
御訓令、趣旨、案、ト申入、但、議、編、ヲ、避、ク、為、錦、州、
政府、ノ、撤退、問題、及、新民府、以西、之、日本、軍、ヲ、進、知、セ、シ、サ、
ル、事、等、一、點、ハ、特、ニ、編、及、テ、ル、事、ヲ、避、ケ、唯、此、際、細、目、其、他、付、
貴、我、協、定、ス、ル、事、ハ、學、長、ノ、自、然、的、撤、兵、ノ、趣、旨、及、本、件、緊、急、之、
解決、ノ、趣、旨、ニ、反、ス、ル、ヲ、以、テ、日本、側、ト、シ、テ、ハ、善、当、リ、問題、ト、セ、
サ、ル、意、解、ナ、リ、ト、説明、シ、置、ケ、リ、(要、ス、ル、ニ、我、方、ハ、大、体、七、
日、貴、下、ノ、欲、サ、レ、ル、御、趣、旨、ニ、賛、同、シ、本、日、ハ、特、從、此、
條件、等、ヲ、議、議、ス、ル、為、束、新、セ、ル、次第、ニ、ナ、リ、サ、ル、ニ、付、副、司、
令、ニ、我、方、認、意、ヲ、表、露、ス、ル、此、際、自、然、的、之、至、急、撤、兵、ヲ、

完了也。この様致し度い。述べた。是湯ハ御趣旨ハ直ニ
副司令へ傳へ。尚撤兵措置。関々。其後ノ模様ヲ
見へ。ト諾レリ。
三。湯ハ之ハ自今。一考。ナリ。撤兵ノ秘密。行ハ。ナリ。
ト。且大部隊ノ事を。ヤリ。一週間位。テ完了。レ得。ナリ。疑。ナリ。
ト。云。ハ。付。
本官ハ。事。極。テ。急。ヲ。要。ス。ト。ナリ。又。若。カ。モ。副司令。カ。幾。分。
一。困難。ヲ。排。シ。一。大。英。断。ヲ。以。テ。本。件。散。行。ヲ。決。心。セ。レ。タ。リ。
ト。大。至。急。ニ。テ。実行。セ。サ。レ。ハ。副司令。折。角。一。誠。意。ニ。テ。及。ス。
ト。ト。ト。ナリ。又。一。週。間。位。ノ。撤。兵。完了。一。要。ナリ。各。カ。統。

セリ

四、尚、絶對内幕に於てハ副司令ノ内心ヲ忖度スルハ副司

令ハ本件敢行ニ依リ全執國內ノ同情ヲ失フ場合日本側

ニ予副司令ヲ如何ニ取扱ヒリヘキヤ心配シ居ルカ如シ者

此一點ニ付何程カ安心ヲ與クテハ副司令トシテハ現狀以

上ノ大決心ヲナスニ至ルカ如シト雖モ然レモ付本官立

テ外ニハ日本側ニ於テハ副司令カ遠西其ノ他ニ於テ

種々陰謀ヲ繰リテ後方擾亂ヲ策シ居リトハ強キ

疑ヲ有スル者若シ本件ヲ速カニ実行セリトハ疑テハ

存日本側ノ疑モ尠ナリトモ靖ニハリ此ノ際ハ副

司令一誠意ヲ示サレハ本機
會十ニ付大至急本件実
行一ト各般一關係ヨリ見テ副
司令一為ニ最肝要ナ
ト可然親錄シ置テ

北平 十月十日 後
本署 秘書

帶外務大臣

矢野參事官

第七五九号

任電第七五九号之関シ

十日午後湯ヲ任新也之同人ハ本朝御詔ノ次第ニ

副司令ニ傳ヘリル也副司令ハ既ニ言明也ト通リ本件実

施ヲ進メツツアリテ所要列車ノ準備方命令済ムト

同時ニ先軍隊ヲシテ何等誤解無カラシメ故障ノ勃

發ヲ防キ本件ノ急遽実行ヲ圓滑ナラシムル見地ニ

リ前線各旅長ニ自分ノ決心ヲ打明ケ方針ヲ統一スル

RECEIVED

彼等が当地呼寄方を配済ナリト言ハレる述ヘヨリ本官
ハ各方面ノ情報ニ願ミ事態極メテ切迫シ居ル付本件
緊急実行方切言シ置ケル最近ノ機会ニ於テ本官直接
学長ニ面会シ先方ノ措置振ヲ質ス答

尚湯々本件ニ付テハ当地ノ学長部下中至強ク反對スる者
若シハリ外部ニ洩レサハ様々モ依頼シ居ル付此ノ
上トモ其點然ルヘク御配慮願ヒシ

昭和六年

北平
本省

十二月十日

陸軍省
陸軍部

大義外務大臣

矢野龍溪

第七四九号

陸軍第七四五号之関

十六日湯爾和、求、依り陸軍省、同、人、副司令ハ、轉、

滿洲問題等協議、爲、十、日、飛行機、南、下、也、

陸軍第七四六号、途中、強、風、遭、ハ、濟、南、ヨリ、引、返、也、

力、難、ハ、爲、日、下、降、也、ト、モ、リ、最、早、強、ハ、行、リ、必、要、

ヲ、認、ム、ト、ナ、リ、從、來、副、司、令、ハ、南、京、政、府、ト、家、

族、十、日、聯、絡、ヲ、執、ル、ハ、全、ク、藉、個、人、之、對、ス、關、係、ニ、基、

廣東十二月十九日發
本署

犬養大臣

須磨總領事代理

第七二一號

十月日胡漢民ハ本官ニ對シテ自分ノ畏敬ヲ犬養

大臣ニ對シテ忌憚ナキ所見ヲ述ヘテ其同情ノ御

意ヲ煩ハシ度キ次第ナリトテ乃チ情問ニ至リ熱心ニ語リ

テ其要領ヲ一通リ

一、滿洲問題ハ自分ノ先般廣東ニ於ケル記念週ニ於

テ述ヘタル通り(佐電第七〇四號)日本側力計畫的

ニ之ヲ企テタル仕業ニモ非ザルハ中力何レハ何國ノ間ハ

入軍人ハ一種特殊ノ心理状態ナル處物ニ日本軍人ハ
一旦拔ケル刀ハ故ナリシテ鞘ニ納メザルヲ魂トシ居ルヲ
介石ノ政府ハ此間ノ氣魄ヲ鞘ハス徒々對ハ空戰等ノ
暴言ヲ吐キ日本ノ輿論ハ勿論中國内各般ノ氣勢ヲ
極度激成セシメ新聞界學者界等ヲ退引ナラザル事能
ハ隔レシタリル為本問題ハ意外ノ深ミニ陥リ來リ定ニ
遺憾ニ堪ヘザル處更ニ此儘ニテ推移シカ目ヲ逐テ惡化
シ行キ遂ニハ收拾シ得ザルニ至ルヘシ
六而シテ此形勢ヲ挽回セシトセハ先ヲ廣東政府ヲ成立
以來至終ニ來リタム東亞全局ノ和平達成ヲ目標ト

✓ 千敬孫文、一依囑、立連リ大亞細亞主義、一實現ヲ
期セザルハ、即チ廣東政府ヲ陳友仁ヲ濫日也、此等
種ニ、一連綿、依リテ努力シ来リ、然レトカ、恰モ今同滿洲國
題、一勃興、依リテ急速實行ヲ迫リ、此一事、終テ、一
條緯ヲ通觀シ、兩國ハ、小異ヲ棄テ、大同ニ就リ、見地
ヨリ、一方中國側ハ、日本權益擁護、一自衛的措置、一勿論
延、一々、ハ、人ハ、過多ヨリ来、日本、一必然的經濟上、膨
脹等ヲ、諒解シ、ソ、而シテ、他面、日本側ハ、最近特ニ、燃烈ヲ、極メ
来リ、且、中國人、一政治殊ニ、國家主權ニ、関スル意義ヲ
無下ニ、没却セ、サ、越、若シテ、急速解決ノ、途ヲ、見出ス、一外、

二、依平細目錄、日本カ從來主張シ来リタル之ノ箇條問題等、如ク中國ノ國民的感情ヲ飽リ迄刺戟スルカ如キ法律問題ハ此際之ヲ避クルベトシ身ヲ日本國ニ打關策ヲ見出サントスルカ所高所、立ラヘキモノトシ自今ハ今ノ所政府ノ負ハ此際ノ七黨部ノ中央委員トシテ此際物々申上ケルカ之ヲ教示東國境ノ革新ヲ促シテ頭山翁等ノ率ニ謂ハ八國民黨ノ老同志トシテ自分等ヲ鞭撻シ来リ自然自分等モ最モ畏怖シ来リタル大義大旨ノ新馬ヲ見新ニ始メテ孫子ノ遺志ニ依リ日華關係ノ革新ヲ調整シ得ルカ日本政府ヲ得

府側、孫文、本旨、歸ラントス。廣東派ヲ中心トシテ統一政
府形成セシ、恰モ双方トモ心機一轉、一場合トシテ高調
ニ此間、機運ヲ利用シテ日本ハ自發的ニ撤兵シ、中國上
記ノ日本滿蒙權益ニ對シ特ニ無理解ナリシ強學科
及其一黨ハ全然之ヲ驅逐シ、且今後モ此種軍閥
跋扈ノ餘地無カラシム。棒ノ仕組トスヘン即チ豫、魯
官ニ對シ汪、孫、陳等ヨリ申出テ日ハ所謂滿蒙
文治案ニ依リテ孫文ノ東三省模範政府ヲ實現セ
シムヘキコトト問題解決ノ要點ニシテ自分ハ日本側
ニ於テモ斷然結繩ノ障礙ヲ拂シ、此方途ニ進ムル

コト却謬、堪へず

五之ヲ要スルニ自分ノ對日問題ノ限リ從者廣東

政府要人ノ貴官ニ相濫ニ來リ、日ノ意見ト大體同様

ノ見解ヲ報シ、元ノ十ニカ一紙電、第七〇一號ノ前送、如

大筋ノ解決ヲ遂リ、日ヲ得ナニ、日ノ外交機關等ヲ通

シ難キ事情ニ至リ、且ハ民衆ノ動搖頗著、激成

等機微ニハ關係セカ、ハ萬事ヲ極メテ秘密且迅速ニ

處理スルヲ要スルハ故ニ中國側ヨリ先ク云、五代代表

ヲ大義長大臣ノ許ニ簡派スルハ大體交渉ノ端

緒トシテ最モ大切ナル條子、自分ノ孫科ニ就テ此趣旨ヲ

MARKED II

詳述シ至急右様取寄方ヲ懇通スる書翰ヲ記シ
レハ之ヲ十八日程^ヲエジプレス、才以^ハロ^レニ^テ北上^ハ陳中
字ニ記述シ右ノ點特々至急実現政^ニテ中斷^ナル
久此以上ノ早見^ニ懽々大臣ノ御意見ヲ承^リ得^ル年
某^ナ了^ル

電送十年十月平里公十時就

在廣東復慶總領事代理

大 義

第廿五号

貴電即七十一号之圖

所謂統一政府前途為逆轉之難也

廣東側政難把持一後果已見矣

中不疑心之假之我方之滿足十之

力實行八五即現狀之六零易一

現下之日支兩子一政治狀態之願

元此際自兩國間之今次事件之圖

7 7 1 體 4 形 慮 3 要 2 心 記 1 下 1 思 考 2 本 土 廣 東 派
 1 本 那 政 界 2 於 4 地 位 並 本 大 臣 1 孫 文 等 對 於 從
 東 1 情 誼 2 中 1 胡 漢 民 1 申 出 2 對 1 天 相 為 裕 1 下 1
 1 應 酬 7 十 1 置 夕 下 可 然 卜 存 2 付 別 電 報 大 四 号
 1 趙 君 7 本 大 臣 1 胡 2 對 2 個 人 的 傳 言 卜 1 可 然 籍
 遠 心 3 1 4 1 1

電送 一九三五年

昭和十年十二月二十日

杉本

中

總領事代理

大藏大臣

一、故總理、高第、胡漢民、汪精衛、日本

二、對、死、問題、日本、女、獨、尊、

三、東、亞、金、局、和平、達成、見、地、同、問題、

四、正、解、決、方、案、期、也、孫、氏、親、友、

五、自、身、深、欣、快、所、

六、今、次、事、件、孫、總理、遺、囑、無、視、輩、排、日、的、不、

法、行、爲、對、本、國、民、之、權、益、一、切、

爆発ヲ見ヨウニシテ今中國ハ上下一致シテ敘事件ノ満
足ニ解決ヲ遂ケスルハ已ニ其強固ニ決意ヲ有スル
ニ力自分ノ中國ニ其約束ヲ責任ヲ以テ実行シ得ル強固
ニ統一政府成立ニ我方ト一聞ニ誠意ヲ以テ交渉ヲ行
ハストスルニ於テハ我國民ヲ誘導シ大局ノ立場ヲ兩國
間ノ根本問題ニ付協議ヲ遂ケテ所存ナリ
三、就テハ此際胡漢民氏等ハ一意強固ニ中央政府
ノ樹立ニ精造シ孫總理ノ大要細則並正義ニ達致ス
ニ輩ノ徹底ノ排除ニ努ム一方即舊中國國民
心ノ鎮靜ヲ計リ以テ孫總理ノ前記ヨリ交渉ヲ

健實十礎地上開始心得事終ヲ誘致至下肝
要十ハ之反ニ在光戸一準備出来以上其間之早急
ニ交渉ニ着手スルカ妙手ハ決シテ本件交渉ノ成功ヲ期待
ハ本所以非也一ミナラズ在中國民心ノ現状ニ鑑ミ必ス
中實ノ激烈ニ反抗シ今ニ反對派ノ爲メニ利用セラル
東側ニ依リ政權確保ノ前途ニ意外ノ障礙ヲ来スナキ
ヤヲ冀ム
尚本件交渉ヲ秘密ニ行ツカルハ事ノ重大ニシテ國民的
関心事日々ニ顧ミ極大ニ困難中ニ在リ從テ中國側代表
者ヲ自分ノ許ニ簡派スルハ必ス世間ニ露頭スルハ

豫期又ハアタシヲ以テ其一流道ノ時期宜シキヲ得ル
兩國關係ヲ刺戟ノ事態ハ紛糾ヲ増ス至テ其ヤリ態
念セザルヤ其今日ハ未ダ其結期ニ非ラント思フセリ

廣東
本署

第十二月廿七日

大義外務大臣

復總領事代理

第七七七號

貴電即久三號

御訓令、趣胡漢民、傳達、為廿五日赴省、途次

唐紹儀、松井中將、求、依、海、港、予、會、見、為

離、廣、卜、同、車、之、見、能、入、之、海、之、約、三、倍、附、之、

り、本、官、卜、懇、談、之、見、其、滿、洲、事、件、之、関、之、御、參、考、

迄、卜、七、八、十、點、之、通、り

一、自、今、三、月、在、滬、中、偶、然、張、學、良、(願、維、新、同、志、

ト会談シタル際、學長ハ沈痛ナル面持ニテ、實ハ日本ハ
滿洲ニ對シテ常ニ憂ヘリ、有テ擬スル一策ニ、如テ國ヲ果テ日
リト奪ヒ、日ニ對シテ自ラ果シテ敗ス、其ハ憂ヘリ、境傷
ム組織ヲ滿洲ニ實現スニトコソ大切ナリト應酬シ、軍事
日ニ力ヲ費シ、際際ニ此ノ天旱饑饉、一カハ中ヲ恐レ、日ニ力
不事此ノ懸念の中ニ取込ニ付、其不詳事ヲ見、日ニ力
此機會ニ於テ兇角排ハテ、得意トシ、事毎ニ理不盡
ナル態度ヲ執ル學長、如キ軍閥者流ヲ、永劫ニ葬
リ去ルナリト、機ハ禍ヲ誘フニ福ト爲シ得ヘシト極メ
ニ、自ラ日本、滿洲ニ對シテ機微殊ニ大戦後ヲ

賄ひ且莫大也投資ヲ行ハシ滿洲ノ内外人安住ノ地ヲ爲スル
ルト同時代ニ例無キ物資ノ開發ヲ爲シ實現セシムル點ハ中
國國民ニ公平ニ認ム要アリト信ジ幫内外友人ニ對シ日本ハ此
種別地位ノ能達スルヲ認ム事独リ日本ハ存大而已ナラズ中
國迄テハ東亞全局ノ幸福ヲ求ム所以ナリト認来ヨ来リヨ
カ
實ニ此種第一條志ヲ廣東側諸同志ヲ總シ陳友仁
等ノ實業ニ御借リヨ日所稱滿洲文治案ヲ案出ヨ
ハ釋ニテ自今ハ能達同案ニ依リテハ滿洲問題ハ解
決セヨハシト確信スルカ故ニ先般東諸方與リ新中央政

府主席、就任、勸誘あり、日、毛、故郷、中山縣、模範
行政事務、カ、物、日、毛、自分、處理、ヲ、要求、スト、理由、三
固辭、シ、東、毛、廣東、側、諸、同、士、勸誘、モ、アリ、事、甚、
重要、ナル、滿洲、文、治、案、實現、ノ、曉、ト、モ、ナ、ラ、ハ、考、後、ト、雖、一
肌、腕、中、度、中、所、在、ナリ、一、所謂、滿洲、文、治、案、ノ、高、級、委
員、ハ、唐、カ、擬、セ、ラ、レ、居、ル、經、過、ヲ、本、官、ニ、於、テ、承、知、ナ
ル、ヲ、前提、ト、シ、テ、話、シ、ル、次、第、ナリ、
三、自分、ハ、常、ニ、諸、種、ノ、國、際、合、議、ノ、效果、ヲ、疑、ヒ、来
リ、且、カ、物、ノ、今、次、事、業、ニ、關、シ、テ、聯、盟、ニ、關、シ、テ、新、新、(日、南
京、政府、ノ、愚、策、ヲ、見、ル、ニ、ハ、實、ハ、強、然、タリ、ン、次、第、ナリ、

十一月十九日以來一現事會之於日本カ聯盟より中國実
狀視察委員派遣方ヲ提出せりルヲ見テ左に今次
事件解決ニ何等貢獻せん處ナキハ勿論將來少クモ
所謂諸國ヲシテ中國進イテハ東亞ノ問題ノ關係
カトイフヤハワキリ端緒ヲ變フニモ一ツイトモ思考セ
ル實ハ深ク遺憾ニ存ス居レリ

四箇年下ヲ是非大義視現ニ御指ヘテ願ヒ度キハ故
孫文カ總理ニ渡リタル萬字ノ東亞政局ニ關スル經
緯ヲ此ノ際特ニ御考慮相成所謂五大綱略謂ハ
一カカチミハワキル細項ハ他日ニ議シ一白毛早リ大進ニ

新ノ見地ヨリ今次事案ノ解決ニ能ク日本ノ總理大臣ト
シテミナス故孫文從テ目今諸同志トモ老友トシテ御
書カレヨリ日本點ナリ

廣東十二月
辛巳日
本署
辛巳日
前發

大慶

第七九九号

總務課
總務課
總務課

平谷胡漢民ヲ修訂シ貴電亦又四号一趣旨ヲ傳達シ

ハ茲胡ハ終始修訂シ其ハ當方一推送ニ指參セハ在要

領ヲ認テ日ハ紙片ヲ拜見致シ日ハト述ハ日ハハ付立ヲ示

シハハ茲再立ニ熟讀シ日ハ上名日本文ヲ自ラ中國ハ翻

譯既味シ左一通述ハ日ハ

ハ大義總現一御趣旨ハ充分瞭解シ感佩一念ニ堪

ハス自今ハ全然同意見ニ殊ハ本件交渉ヲ誠意

誘導スルニ當リ先々以テ兩國友好關係ノ基礎ヲ作
テ肝要ナル最モ痛感シ居ル所ナリ故自今之於
吾國今中國ノ對日政策緩和ノ旨念シタリ所存ナリ
一事重要ニシテ秘密折衝ノ不可能ナルミナラス却
テ惡影響ヲ与来スルキハ自今ニ同感ニ堪ヘザルヲ以テ陳中
等山田等ニ對テ此ノ趣旨ヲ更ニ申合ハ渡ルニ其意
ニ任セヨトシ又渡ルニ場合ト雖軍ニ意志疏通ノ爲メ
力スヘリ是レ式ニ非レ式ニテ交渉シテハ如何キトナキ様早速
資料ヲ通シ申送ルニ藉介石ハ其ノ常套半段ハ陰
謀的欺瞞政策ヲ爲ス今次事件ヲ釀シカニ譯合ナシ

元鑑之自序。於今元極力秘密。其涉等。以避其耳目。心組
ナリ。ナカ故。只場。右。依リ。テ。陳。山。田。等。ヲ。シ。テ。總理。ニ。敬
意。ヲ。表。山。シ。ム。程。度。ニ。止。ス。ム。シ

三、總理ノ御趣旨ヲ體シ堅固ニ志統一政府ヲ一日モ早ク

自分等ノ手ニテ實現スル様此ノ上ニ一途ノ努力ヲ致シ度

本所存ナカ一方中國國民對日憤今ヤ絶頂ニ達シ居ル

際ナニ鑑ミ日本政府ニ於カニモ此ノ上事能ク重負

他モナラヌニトナリ殊ニ惜ム(3)カ如キ錦州攻撃

等ノ不祥事ヲ因甘様總理ノ内政上重要ナル觀測

ヲ以テ兎角尖銳化ノ傾向中凡軍部ヲ新鋭大局上

一見地ヲ革命制相成東亞和平一達成之努力ヲ爲ス
ト切望ス堪ヘズ

四、要之總理、御趣旨一一満足ニ堪ヘサカ特ニ學

長ト軍閥ハ一切之ヲ排除シ近世的政治ノ實現ヲ期

シツツナル我々廣東同志一熱意ヲ深ク認~~識~~識セリ

今次事件ノ解決ニ関シテハ吾等自今等ヲ目標トセリ

存意ヲ親ヒ惜ミ欣快ニ堪ヘズ自分等ニ之ニ干金ノ難

難セリハ切望ス堪ヘズ

終局缺憾餘ハ又ヒ日ハ胡ハ終始欣然トシテ應

シ如何ニモ愉快ヲ隱ニ暢言ハス風ニ見受ケラレタリ

犬養

第一一號

南京 6月 五日 午後 終
本

上村 總務

五日、新東京日報に社説、於て陳友仁ハ二日外交部

員ニ對シテ就任後指申滿洲事件ハ武力ニ依リテ解決

スル旨陳ハリテ趣中ハ外交手段ニ依リテ解決スル場合

其形式方法ハ多クアリ從テ滿洲事件解決ニ外交手

段トシテ千ハ強西亞ノ援助ヲ得ルヲ聯盟ニ賴ルハ米國力

ヲ借ルハ或ハ全然日本ニ讓歩スルハ一因若シテ是意ニ

陳氏ハ日本ニ對シ所謂條約上ノ權利ヲ許認シ滿洲

特殊地位ヲ認め、東ニ進テ日本兵ノ東北占領ノ現状ヲ
承認スルカ如キ事ヲソシカ其結果ハ政府ノ………陳氏
自身ノ墓穴ヲ掘ルニ等シク四億ノ人民ハ陳氏ノ肉
ヲ啖ヒ其ヲ鞭ウヘント述ヘタリ

電達 八三三

昭和七年一月廿三日

松本 上海 電光 使

大 長

第三号

留南京 案 聯合 八 陳 友 仁 八 再 三 日 内 電 光 八 使 八 最

初 八 式 會 見 八 行 八 案 八 三 八 在 會 員 八 結 果 八 滿 洲

事 業 八 中 心 八 八 諸 案 件 八 關 八 重 要 八 決 定 八 見 八

八 一 八 期 待 八 八 八 八 諸 案 件 八 因 滿 解 決 八 見 八

見 曉 八 八 日 八 友 兩 國 八 使 館 八 八 大 使 館 八 昇 格 八

八 見 曉 八 八 八 八 中 央 通 信 八 社 八 通 信 八 報 道 八 展 八 在

八 内 外 八 變 論 八 相 當 機 微 八 八 影 響 八 八 八 八 八 八 八 八

✓ 恐ろしく南京政府筋一室倍々思へん如

出下日、真細部取調同電やり度

通信

昭和七年

南京一月六日前着

大義

上村領事

第四号一

五、外交部長ト意見交換第一五號、應酬中、日以後

一、陳、白、分、對、日、態度、一、日、貴、官、之、御、話、之、日、通、徒

ト、少、シ、モ、事、化、ナ、リ、大、正、細、重、義、ノ、理、想、一、下、日、本、ト、一、友、好

關係、ノ、同、様、ニ、滿、洲、ニ、於、テ、日、本、一、共、同、共、榮、ヲ、針、リ、度、

者、十、七、日、未、日、日、本、一、新、内、閣、ノ、意、向、ヲ、承、知、也、其、物、也、

惑、シ、居、ル、以、外、ナ、リ、從、テ、外、交、部、長、ノ、執、行、以、來、各、方

面、自、由、外、交、政、策、ノ、開、闢、問、ハ、リ、日、本、最、重

要するに日本は意向を承知せしむる確かな政策を遂げよう
と出来ず従て質問に對しては極く曖昧な答へ居る
次第なり

然るに最近自分も從來の對日政策に對し攻撃の初音

を聞かすに實は年々シテ弱々な流れ、仁業を自分へ

之を打ち克つ自信が有ることを力強く示す來る先達、日本

新内閣の意向を承知せしむる上自分も進んて中途で確然

と定めて一般に此政策の甚だ様指導を準備する

は必要なり他方欧米各國に對しては前述の如き事情

より米の南京新政府に對する方針を付する何等

ヲ緩和スル問題ヲ提ケ注意ヲ轉換ヲ計ンコト良策ナリト
考ヘン就テハ先ク兩國間ニ不侵略協定 (Pact of non-

aggression) ヲ締結スルコトニヨリ (曩々自今一

述ハタシ) パンセント、コンティネンタル、ミリタリ、

アライアンスノ問題ハ今一懸持出ササ方可ナリ) 此際

支那側ヨリ撤兵ノ要求ハセザルハ中毛不侵略協定共

成セハ当然撤兵セラルハ中筋合ニシテ結局日本軍部

ノ親毛共々同情結ニ支那側ノ懸念ニ毛良好ノ影響ヲ与

フヘリ極テ手面白キ案ナリト思考ス尙又当政府ノ對毛

針ハ前述ノ通り日支ノ共有要素ニ在リテ以テ日本ノ滿洲

二 於此條約上ノ權利ハ充分尊重を義務ニシ此條約上
ノ權利ハ充分尊重を義務ニシ此條約上ノ權利ハ充分尊重を義務ニシ此條約上

Joint Commission

ヲ組織シ解決案ヲ見出ス事トシタリ

以上ノラインニテ本件ノ解決ヲ付ケ得ルハ兩國國民間

ノ感情ヲ漸次良好トシテハ滿洲ハ文治主義ノ

下ニ中央ノ直屬トナリ中央ノ命令ヲ徹底シテ以テ間

題解決後ハ過去ノ如クハ紛糾ヲ繰返シタス

無カント考ヘン

三 尙年海ノ方法ハ先日モ御話ニ由ル通先リ秘密

「ア、オ、イ、シ、リ」之談合ヲ進メ大體ノ談合終
リタル上是ヨリ直接交渉ヲ開始スヘシト云フカ如ク發表
シ發表ノ後ハ瞬ク間ニ協定ヲ成セシメ英海中外
都ヨリハリ来リ各報ノ故障乃至妨害ヲ避ル
様政ニ度々考テト

述ヘタル上陳ハ變ニ繰返シ右ハ當方ノ案ニカ目
ハ達ニ日本側ノ意解ヲ知リ且上國領ノ指導
近ク開カシ（中國國際聯盟ニ對スル準備ヲ進メ）必要
是ヲ以テ（日本側ノ新内閣ハ誠意ヲ以テ滿洲事
件ヲ平和的交渉ニ依リ解決スル決心アリヤ）「イエス」

ハ細目一覽ハ完全角大体系御鑑一ツアイレニテ直ニ
接文海ニ付意嚮アリヤ至急承知シヨクニ付日本政
府一意向ヲ覽ニ付回答ヲ賜フニ様御配慮アリ
日コト速入リ

御手本官人御鑑一ツ次ハ早速政府ニ傳達スル事
ヲ答ヘ置キタリ

七年

南京一月十五日
本署一月十日
着

芽澤外務大臣

上村領事

第三五号

修電第一四号ニ関シ

其ノ後廿八日候旨回答ニ據保ヲ受ケルニトアリルカ本

官ハ政府ノ御意照ニ付テハ何等形新カニ是キニ依リ己ハ

リ或ハ大義總理ニ於テ芽澤大使ニ歸朝ヲ請フテ決定

セントセラルルカ爲メ本件回答ノ發出遲延シ居ルモノカ

モ思ハルモノナリ述ヘ先方ニ於テ早急ノ回答ヲ期待セサ

押ヘ置キルニ修電ノ内容最近外交部ノ外部ニ對スル

發表ハ吾陳部ト一關陳也ハ意嚮トハ全然相反スルモノナ
リ右カ軍士ハ空俗ニ過半甘んミナリヤ賜又方針ヲ變更シ
ルモノナリヤ判明セズナリトテ本官トシテモ政府ノ御意嚮ヲ
全然承知セズシテ部トテ会見スル譯ニモ参ラズ誠ニ困
居ル次第ニ付此ノ際政府ノ御内意大ナリトモ御同系ヲ
ハ好都合ナリト存セラル

七年

上海一月十八日午後著

芳澤外務大臣

印原書記官

第二卷之一

重光石便へ左一通り

十日田中少佐一談、依り同日陳中孚同武官ヲ訪

孫科居正ノ代表ナリト前提シ去ル十三四日ノ國民改

府ニ於ケル對日策合議ニ於テハ大勢對日國交絶絶

ニ傾キ殊ニ外交部側ハ極力強硬說ヲ主張シ陳友仁

陳銘杞、朱瑞德、何應欽、孫科等強硬論者事

態極大ニ重火ナリシヲ以テ宛ニ角今ノ應日本側ノ

通る。確々。日。上。方。針。ヲ。決。定。ス。ト。シ。陳。ヲ。代。表。ス。
 未。流。セ。シ。大。廣。東。政。府。独。立。以。來。同。人。同。儕。下。リ。シ。同。儕。
 依。リ。勢。ハ。日。本。軍。部。ハ。意。ヲ。確。メ。シ。合。フ。ト。ト。ナ。リ。シ。事。
 情。ヲ。告。ゲ。日。上。ニ。其。拜。側。ハ。陳。ヲ。總。命。ヲ。擔。ケ。テ。何。所。決。ス。
 一。為。ス。ト。ト。ナ。リ。張。ハ。決。死。ニ。志。シ。日。本。ハ。滿。洲。ヲ。奪。

日本、一、年、河、の、進、入、十、五、萬、の、滿、洲、一、地、を、宣、言、せ、り、
二、新、天、皇、一、結、核、於、予、南、京、政、府、の、面、對、日、國、交、新、
三、條、約、を、宣、言、せ、り、ト、決、定、シ、居、レ、リ、ト、述、入、テ、聞、小、使、の、

答う北より在對同少佐ハ一應中央軍部に問合
セザル上何令ノ返答ヲ為スヘシトテ陳ヲ引取ラシメヨル程
ナリ(~~重慶~~)ハ重慶ハ歸朝後南京政府要人ニ對
シ日本軍部一急電ハ極大ニ強硬ニシテ滿洲一獨立
ト免難平旨報道シ来リ居ル模様ナリ)陳ハ十九
日復行ニテ上海ヨリ南京ニ赴キ平ハ一國務會議ニ
列シ續リニテ田中少佐一回答ヲ結ケツル間係
アリ右陳申知一次第ハ田中少佐ハ軍部へ至急請訓
申古由ナルカ本件ニ關シ本官トシテ心得置クハ申點
ヲ至急御同示ヲ請フ

龍送牙八五号

七年一月十八日

芳澤

南上村缺事

牙一号

貴電牙五五号、閣下

貴電牙一四号陳友仁申出、近時、於今、我國輸下相當

一懸隔、下、十三、下、南、政府、地位、甚、不安定、古、現

狀、之、願、之、我方、之、於、今、善、當、之、於、下、問題、下、之、所、之、其

況、年、十、七、七、在、於、牙、總、處、之、明、之、様、之、先、方、之、不、下、下、一、面



白、下、下、下、八、何、部、十、之、付、貴、官、下、必、要、之、應、之、本、邦、之

於、下、内、閣、更、送、新、外、相、就、任、議、会、開、会、切、迫、等、

事由、一、物、十、何、様、下、取、下、之、居、下、下、下、思、考、之、意、目、下

錦朝中、唐光武、倭、本件、付、本國政府、下、等、協、議、
右、下、上、心、位、一、趣、多、手、不、即、不、離、一、應、酬、了、為、
心、置、心、心

至急電報

昭和七、一、一九

一、一八後
七、四五
九、〇六

參謀次長宛

上海公使館附主官

支第一六九号(其之一四)

本十日午前陳中江等ハ孫科及居正、使君等ト

于特小官、會見ヲ求テ次ノ如ク語リ至急回答ヲ求

ト曰フ

現南京政府ハ成立当初より滿洲問題ノ解決ヲ以テ其

重要政策ノ下ニテ之ヲ實行ヲ期シ居ル所偶々蓋

然ル南京ニ於テ大義總理ノ意志ハ亦南京政府

ト同一古下ヲ知リ大ニ起ヘリ然レトモ彼ノ歸路は同人
ヨリ外務方面ハ兎ニ角軍部方面ノ意志ハ滿蒙獨立
ニ在リト亞其意志ハ極大ニ確乎タルモノナリトテ
電報ニ來リ大ニ述ハ實國奴ノ汚名ヲ着セリ云々
鐵ノ鎖ヲ嚼ミ來レハ孫科亦陳友仁等モ當野ノ報ヲ得テ
俄然態度硬化シ對日國交斷絶ヲ絶叫スルニ至リ
十六日ノ政治會議ニ於テハ孫科ト其通過ヲ覺テヤリ
茲ニ於テ自分並ニ陸正ハ孫科ニ對シ其暴舉ヲ先
告セ今一度上海ニ到リ廣東政府獨立以來關係
ヨリ日本軍部ノ意志カ何レニ在リヤリ確ハ

へり夫レ迄国交断絶決議ヲ延期せしむるに
亦急ヲ辭シ小官ヲ当地ニ派遣せしむるに
ハ独立以外ノ手段ナラハ如何ナル條件ノ下ニモ解決不能
ハ本國塔ノ独立ヲ断行せしむるに於テハ遂ニ不幸ナル国交断
絶ヲ招来スル已ムヲ惜サニ至ルモ未知レ日本ノ真意ハ
果シテ何レナルヤ若シ滿洲独立ヲ断行せしむるナラハ
亞細亞合衆ニ國交断絶ノ同意セサレバ日本方針ヲ
承知シ得トシ之ニ對シ小官ハ公使館ニ林出書記官ヲ
新聞ニ如何ニ回答スルヤ小官トシテハ「独立ノ方針ナシト
答」國交断絶ニ導カラザリ有利トセズヤト申シテ日ハ林出

書記官ハ事務重クナリ以テ本務ニ専心ヲ傾キタル
上同答ニヨリト述テタリ、小官トシテハ如何ニ同答スルカ
スルヤ至急指示セラル度尙此同答ハ陳分明ナレバ午後十
一時ト列車ニテ南京ニ歸ルハ申ス様ナリ明日中ニ返電ス
ルナリ

發電昭和七年一月二十一日

在華公使館(上海)

守書記官

芳澤外務大臣

滿蒙地方建設陳中孚申和仲

贈予之号極秘

貴電第二号及貴官於南京宛電報第七号

陳

一、四年補佐官一精訓、蒙軍部、同訓、八、高才、卜打

合、上、發、七、八、日、月、年、一、二、三、其、要、旨、八、滿洲問題、

際、各、帝國、政府、一、總、理、度、八、累、次、一、聲、明、等、二、依、之、明、示、

り、又、斯、種、問題、二、付、予、八、我、軍、部、代、表、ト、シ、テ、應、接、ス、

本筋合ハズト云フニ此ハ然レハ其那側力責任地
他ハ然ル人ニ言統ニ惑ハサ有勅ニ應ワラ戒ム
ト其斯體政治問題ニ付其那側責任者力我軍
部代表ニツツプロロチスルカ如キハ粗メテ要則ノ邊口
ニシテ軍部トシテ迷惑至極ナリト一趣旨ヲ表
スルハナリ

二、滿蒙ニ對スル帝國ノ要領ヲ前記ノ如ク屢次ノ
聲明等ニ依リ經テ明カナリ即チ我方トシテ滿蒙
ニ對シ何等ノ領土的欲心ナク且門戸開放機會
均等主義ノ實ニ期スルモノニシテ同地方力

トテ果シテ如何モ実質ヲ有シ如何モ程度ノモノナ
リヤ我々トシテ何等適確ノ情報ヲ有セザルト同様に彼此
関与スル事柄合ニヤラザル事ナク

三、就テ、穀上ノ趣旨御意トシ今後心要ニ應ジ陳中文字其

他適當ノ向ニ對シ算ト在我方ノ其情状ヲ説明セザル

一、支那側ニシテ勢ニ駆ラレ條約ヲ願フス我方ニ對

シ國交斷絶等ノ過激手段ニ和ワル下ヤラズカ其ノ

結果ハ支那側ノ豫期ニ反シセザル中ト同様に之ニ

基ク其ノ責任人總テ支那側ノ責任ノ中ニ在リトテ其ノ

示シ置カレ度

七年

上海

一月

平旦自署

芳澤

守府書記官

第四五号

重光公使へ

二十七日陳中軍談トシテ山内内訌云々所ニ依リテ對

日強硬論ヲ主張セシ陳公使ハ既ニ辯表ヲ提出シ南京政

府都内ニ態度穩健トシテ蔣介石、汪兆銘等ニ日本ニ立

場スル基本五大綱目ヲ承認スル事ニ要議無キ以テ十ニ

日本ハ支那ナキ五ヶ條ヲ承認セハ直ニ直接交渉ニ應ズルヤ

又五ヶ條以外ニ事ニ要求スル所アリトヤ此際日本側

一、意、獨、う、確、力、大、日、上、五、十、條、承、認、一、基、礎、二、於、今、直、接、
支、持、二、入、事、ト、シ、度、獨、江、答、ハ、曾、先、公、使、一、歸、化、ヲ、轉、
本、件、二、付、接、衝、シ、度、平、安、ナ、ト、事、ナ、

7年

上海

六月二十七日

發

省務外務大臣

守府書記官

第百一十六号

任電第百〇四号之関

蔣氏賓陸海軍武官各一名、外隨員一名、義士五

長春の同伴の七月上旬上海發渡日、豫定七月二十日

王、他用束縛之際有怪、問、對、極、終、店、ト、テ、語

ハ、起、作、ハ、蔣、ハ、着、任、後、先、ハ、東、三、省、問、題、解、決、方、法

日本政府ト折衝ヲ試ムハ豫定ハ其ハ明案トシテハ

東三省ハ於今ハ日本側ハ條約ハ上ハ權利ヲ確認ス

了海儀以下滿洲國官吏ハ其ノ終繼續任用スルヲ
全國ニ於ケル排日運動(排日教科書ヲ含ム)ヲ禁止スル
下等ノ各條件ノ下ニ東三省ニ對スル支那側ノ主權承
認方ヲ日本ニ要求スル方針ニテ互カ下交渉ニ坂西中
將ノ轉進ヲ求ムトトシ其ノ連絡係リトシテ同大カ同
行スルヲトナリタリトナリ
右ノ日本政府ニ坂西中將ハ其絕對ニ知ラザル様也
度中呂王ヨリ繰返シ申出サレ由ニ付御意ナリ度也

鈴木通中佐と李擇下面談要旨

七七、一頁

(同日有民同席)

李 過般山園軍務局長、小磯次官と談合せる

先生と、本日談合せる故本日園田氏に依頼し面

談し仰ぐところなり是非忌憚り御意見拝聴

致す意

鈴木 如何なることか談合せる所なりや

李 滿洲事件、就今日より直接交渉、通す事や、関

心なり

鈴木 左様問題、少し、極大に軍簡、少し部々貴国

日本直接交渉ヲ申出ツル前ニ先ヨリ聯
 對スル貴國ノ新ヲ取リ下リルヲ要ス今日一大患
 ハ日支ノ間ニ信ヲ失ヒテ此信ノ回復ハ凡テ一
 根本ナリトス一方ニ新ヲ日支ノ直接交渉ヲ望
 ミツル他方聯盟ニ新フニノ態度ニハ此信ノ回復
 スル能ハス

貴國所見迄ノ革命ノ失敗、不徹底ハ之レ凡テ他
 力本願ノ辭ニ墮ルニ結果ナリ直ニ貴國力
 帝國ト共ニ東洋ノ其形勢ヲ為サントセハ明
 リ直ニ之ニ自力本願ニ其形直ニ之ニ要ス

貴國カ事ヲ聯想ス新入子以來帝國ハ最早カ事
國ヲ相手トシマス英米聯盟等ヲ相手トシ
アリ而シテ帝國ハ自己ノ正シキ信スルニ飽ミ
英米等ノ蒙ラザルヲ進ミ来リ將來ニ亦同
様ナリ此ノ若ハト家相ナリ下ハ小學校生徒ニ至
迄同一ナリ貴君等カ數年前ノ日本ト今日ノ日本
トヲ同一視スルナラハ大ニ誤ナリ本邦ノ店頭
ト本ノ賣行ナリ動向トヲ見ルニ
李 何トカニテ滿洲支那ノ宗室ヲ認ムコトハ出
来ナリ

於本滿洲宗室權ヲ認め認め又ハ日本ノ問題ニテ

日本ハ滿洲國ノ新ナル發生ヲ認め政治ヲ行フ外策

ナキナリ申入迄ニナリ政理事ハ日ハニ新ナリテ滿

洲國ヲ教スナリ能ハルナリ此ハ滿洲國ノ發生ハ單

ニ昨年九月十日ノ事變ノ結果ニミト見ハル

ナリ然ナリ一ノ政治現象ハ又一ノ歴史的發展

ナリ滿洲國ノ發生ハナリト云ハク清戰爭時代更

ニ進ハル清朝存亡時代ヨリ今日ニ至ル特異的發展

展ナリ地理的政治的ニハ日、露、支、三國關係

石、十世界の空間關係ノ發展ナリ故、今日滿洲國

一獨如之在之不能ハス貴國ハ滿洲ノ事ニ就テ騒リモ

外蒙ノ問題ハ如何、西藏^{青海}ノ問題ハ如何

李日本各方面ノ意見カ果シテ君ノ如クナリヤ

鈴木然リ之ハ日本民族ノ叫ビナリ予ハ東洋全局

一為テ君等カ日本ノ測定ヲ誤ルヲトノ不^可ナク思フ

故ニ素直ニ語レリ外務及民間ニモ露ヲヘシ

李外務今日ノ狀態ハ陸軍ノ在^ルナルヲ知レリ

鈴木貴國人ニシテ日本ニ在^ルモノノ内日本ノ近^クリ

大變化^ル故靜觀スヘシト爲スモノナルニ至^ル大ニ誤

算ナリ萬一日本ニ變化^ルニ至^ル更ニ變化^スニ至^ル

日本ハ益々其強ヲ加フヘシ今日ノ日本ハ凡そ點々於
テ欧米ニ抵抗シ得ルノ實力ヲ有ス明治維新ノ
時ハ英、佛、米、三國ヲ向フニ廻リテ國運ヲ打
開セリ今日ノ日本ハ昔ノ日本ニアラス貴國人ハ蘇
俄又ハ英米人ノ空想ニ乘リ日本ヲ誤算シアリ
李 君ノ素直ナル御意見ハ二十四日發歸國ノ上貴邦、
蔣介石、汪精衛等ニ傳フヘシ
鈴木右三氏ハ其ノ予ノ舊友ナリ彼等ノ見聞過去ノ日
本ヲ頭ニシテ今日ノ支問題ハ議スヘカラス貴
國人ノ眞ニ而シテ速ニ日本ノ存在ニテ七國ヲ逃

レアルトニ微スルヲ要ス此ノ點ニ依リシ
要ハ速ニ事件ヲ國際聯盟ヨリ取リ下リトスルハ
本ニ對スル信ヲ回復スヘシ

香港 七月十八日 署

内田外務大臣

桑折總領事代理

第一三八号

復 照 答

先方ヨリ希望一次和ニ下リ十八日豫料ト秘密會見持局ニ

関シニ特約ニ至リ會議ニハハ越在中滿洲問題及上海

事件等ニ関シ參考トナハハ半點左ノ通り

一 汪精衛其他ヨリ自方(豫)ニ對シ歸京方欲出下リ

ハハハ蔣介石一意圖明白ク缺ク點多ク將來有以

來胡漢民唐紹儀等ヨリ元今暫ク自重ヲ求

言えり九月十日迄、南地、北地、靖局、排獨、

静觀、日本心組、之自然、今、起、自分、ト、之、在、那、政府

第一意向、述、傷、其、地、地、松、之、在、那、各方面、空、急

ヨリ、推論、之、滿洲問題、ハ、日、支、兩國、一、間、之、速、急、解決

ヲ、遂、ケ、ル、一、要、々、ヲ、痛、感、ス、蓋、之、共、産、党、一、跋、扈、ハ、豫

想、外、ニ、シ、テ、(別、電、參、照)、此、儘、之、推、移、セ、ル、カ、滿、洲、上、海

兩、事、件、未、解決、之、依、々、混、亂、狀、態、ヲ、利、用、シ、遂、ニ、ハ

共、産、党、一、天、下、カ、現、在、之、將、又、露、國、自、体、ハ、直、接、的、手

部、ヲ、支、配、ス、ル、ヲ、モ、リ、得、ル、中、カ、故、ヲ、

二、滿洲問題、一、解決、ヲ、促、進、セ、ル、存、心、良、一、下、略、ヲ

實現するに先般汪精衛羅文幹等
赴平を以て乃ちナリト案を以て之を良下
院は日本は滿洲問題の合理的な解決を以て用意
するに次第ありやト問へるに付復應言「滿
洲成立の事實は人ト雖も之ヲ無視し得ずナ
るに於て此點を以て支那側は之を充分認識
するに於て所謂滿洲問題の解決は難事ニ
非ずトシト私見を以て答へるに殊に滿洲ト外
蒙トは全然事態が異なり前者は多數漢民族
の居住するに支那中央政府の直接の管下

明白古ハ故滿洲國ノ成立ヲ支那力正式ニ承認シ
得ルハ勿論外蒙ニ於ケル露國ノ權力ニ對シテ
默認ノ程度ニ滿洲問題ヲ要安統ニシテ之
東ナカレハヲ將又歐洲ニ於ケル一口カニ山ニ安全保障
協定ノ如キ事然ラバ支那國契(約)スルニ至
難ナレハリ旁滿洲問題解決ノ前途ハ暗澹ナリト
言ハサレハカラス

三、上海事件ニ關シテハ日本側ニ於テ此ノ上極大強要
アルカ如ク聯盟方面ニ國卓會議等ノ提唱ヲ以テ
之ヲ根本的解決ヲ目論ミツツアルカ如キニ英國

租界佛租界又へ租界外道路等ノ問題ノ如クハ
支問ノミナラズ關係到國共同問題ニ付莫ク協議ノ必
要ニ付ハチ力ハ支問問題トシテ上海事件ノ既
停戰協定ニ依リ決セリト云フヘク排日運動停止
問題ノ如キ組織的團體運動トシテ既ニ減シ居
ルヲ故ニ此上國卓會議等ニ依リ討論ヲ重クス
漸リ鎮靜ニ來ルナクハ民心ヲ再々激越スル
以外ニ效果無キヘリ今後上海南京方面ノ日
支關係者ノ隔意ナキ折衝衡ヲ續ケ行リ外途ナ
クト思考ス

七年

上海

九月

谷田修菊

内田

村井總領事

第九七六号

当館出入、支那新聞記者、三白館員、對汪精

衛三日來滬、此方羅文幹、近來、此方、在、リ、ト、

上海、此方、機會、主、前後、テ、着、供、有、吉、公、係、ト、

一、間、内容、二、日、支、直接、文、海、ヲ、開始、ト、ス、カ、有、チ、ト、

秘密消息、下、南、政府、一、對、日、態度、方、急、變、化、セ、ル、

ト、汪、精、衛、方、最近、秘密消息、ト、接近、ヲ、策、シ、始、メ、

日、二、休、止、ヲ、シ、テ、即、チ、前、記、消息、ヲ、裏、着、ス、ル、ト、

MARZEN I

リ云々ト江精衛ト稱方トナケル
 江精衛秘書唐有壯天野
 吟ヲ漢シハハカ先般中
 代既所傳ニ内密ニ接近シ
 込ニテ旁支那ノ流ノ筆法ヲ以テ有
 觀測シ一部ニ於テハ之ヲ政爭ノ
 ツルハテ觀ヤニ極セリ
 御參考迄

有苦瓜

第一四二号

MARUZEN **III**

通
環
報
久

七年

上野 本署

十月十五日 花

内田 外務大臣

有吉 大佐

第一三四五号

一、調査團報告書ニ對シ余(蔣介石)ハ諒解ヲ示シ

ルハ蓋シ日本ノ意見ナリト述ブニ蓋シ十一月十一日

事會ニ於テ日本ノ採ル態度ハ強硬ナリ(中ニ付今迄

ハ實力ヲ以テ御力サレハ力ヲ又昨午事件以來余

ハ國內ノ共匪ト回憶ノ民ノ不之改ノ為無抵抗

主義ヲ採リ来リシモ今や國內軍權ノ集中成リ

二、若シ日本カ其ノ意見ヲ固執シ交渉自今迄無平始ハ

孫科ノ意圖ヲ探リ陳友仁ヲ外交部長トシ十月
十日ノ理事會ニ於テハ外交ノ妙ニ依リ我ニ有利
ト認メ則テ決意セシメ之ニ依リ日英通商交渉ヲ開始ス
ルコト上海事件ノ如ク又

三月下ノ隱忍ニ依リ日英排斥ニ依リ日本ヲ征服シ一
方軍備ヲ充實シ日本ノ理事會ノ決議案ヲ拒絕シ
日英外交優越地位ヲ占メ以テ空戰ノ機ヲ換フヘシ

南
朱子
三月五日
前著

上海總代理

第七回

[illegible]

糧食宣傳
展覽會
報通
一、般
注意
了
志
中
展
力

四日 新聞介紹
五日 松壽府支那代表
對大

要左通
リ電報
五品
物筆
掲載
所
リ

日本問題
の
目下聯盟
の
解決
の
方針
の
折
柄

今
藏
個人
於
通
接
交
涉
之
後
之
處
也
僧
之
若
已
矣

右の聯盟を離脱し、親
韓を感ぜしむるに於て政府

日本經濟行政院長代理及駐外外交部長等外國在支
外交代表對之有力之聲明及在內閣此種之絕對之通
接及海軍之當然之日本事無干之特種聲明又日本與
盟力必不中好之條約及其他之條約之商會之維持之日本
問題之公平適當之解決之計之日本事之確信又云云

昭和八年

天津 一月 午四時 宛
本有 平賀 署

内田

東京總領事

卯方五号

從電卯五号之關

曹汝霖、桓彬ヲ以テ後藤之内訖ニハ達セテ通リ

過般告曰大使東津ノ際臨視瑞ニ内訖セシ見同大

使ノ御意見ハ般ニ於テモ同感ニ當リ機合ニ據

介石ノ意細ク探ラント考ヘ居リ日ハ迄幸々。今同蔣

ノ懇請有リ日ハ以テ之ヲ機合ニ南下シ蔣自身ノ

意見ヲ即チ先ノ如様ニ依リテハ同大使ノ御意見ヲ即チ

先、本標ニ依リテ、同大佐、御意見ヲ、物、知、白、文、附、題、
一、局面、打、開、ヲ、試、ム、可、シ、ト、言、ヒ、出、發、シ、タ、リ、云、々

天津

一月二十日

前務
後務

内田外務大臣

桑島總領事

第六九号

經一南下、付、二十五日曹汝霖、内務省、通

十五、日頃、錢、永、鐵、結、より、新、介、石、一、依、賴、の、依、り、起、り、以、て、

捐、唐、又、自、合、一、對、こ、り、支、問、題、に、付、經、一、御、教、示、を、得、る、事、

に、付、南、下、方、從、速、に、行、う、る、事、を、電、報、越、え、て、以、て、經、一、に、依、り、

に、經、一、早、速、に、之、を、決、議、し、て、其、の、時、期、に、付、て、ハ、未、決、定、

に、し、て、十九、日、錢、永、銘、來、津、を、以、て、急、遽、南、下、を、思、は、す、

と、い、ふ、事、

尚
知
卷
之
際
之
藉
一
知
方
之
傷
一
千
八
考
日
大
使
一
意
見
之
自
身

一
意
見
ト
千
語
ス
心
算
ナ
ト
語
リ
居
ル
ナ
リ

上海

百平百後後

内田外務大臣

有吉公使

第六一號

一月二十七日夕着滬
ランピンン
公使本使ト後後

節談話中五十七點
右ノ如シ

三八自石ハ極東ノ和平ハ日支新舊ニ俟ク外志トノ

信念ニテ從來亦始終ニ始終ニ来リタル芳澤代初ノ

日本ノ露國同僚ニ熟知シ居ラント起トホク從年今以

東初ト南方各港ニ立寄り一際ニ結ハ無責任ナル支那

政局ノ對日強硬策ヲ執リエニ對シ平ハ先以テ自国内

一統ノヲ先決問題トスヘク実行不可能ナルヲ一ニシテ
断シテ止メスベキ旨ヲ鏡ニ来リタル次第ナリ自方ハ暫ク
現地ヨリ遠サカリ大令情勢ニ疎ナリ居ルニ過去ノ事
實ハ右更格別必要ナラザルヘク復ナリ現実ヲ見テ善
越スル外ナシト考ヘ居リト云ヒ至トシテ北方ノ狀勢ハ
関心ヲ拂ヒ我方ハ関内ニ此一上トモ進軍スル意志ナキ
ヤニ付斷ズ越リヤリタルニ付本使ハ我政府ニ於テ斯
カニ意圖アリザルハ勿論ニシテ山海關ノ占領ハ予
那側ノ批難ニ係リ想シハ予備然一和衷事ノ結果
ニ於テ双九門口ノ占領ハ之ニ伴フ軍ノ安否ヲ計

日一自手解一之只熱河問題ハ我外相力議合。解
 明也。如ク早晚解決一要アルハキニ政府トシテ人慾ウヘキ
 限ハ和平手段ニ知リ。考ト認メテ。限内ニハ支那側ヨリ
 進解セシメ。限外事件ヲ波及セシメ。方針ヲリト了解シ居
 ンガ説明ニ
 唯平津地方ニハ十數萬ノ軍隊實地駐屯。軍一駐セヌアル
 表ニ統率者ニシテ失脚ハ或ハ給料不拂ニテ久シク續カシ
 カ。忽チ兵變ヲ起シ。シテ天津地方ハ危殆ニ瀕ス。慎重カ
 ヲス。慶大寧口支那兵自體ニ在ルニ。如シトセ。ルニ同人モ首
 肯シ居リ。尚。ハ此ノ上。日本力支那ノ神經ヲ刺戟スルカ如

MARZEN

電送部 〇〇〇〇

在 露 府

澤田事務局長

内 田 大臣

在 露 府

出 淵 大使

國民政府、該局對策、限々ハトウ、内 訖

今年五七〇号

南京より来滬中、國民政府顧問ハトウ、カ 露 友 間

ハトウ、内 訖 左、如

ハトウ、内 訖 左、如

一、國民政府ハ 聯盟最近、態度、不滿、カ 露 友 間

ハトウ、内 訖 左、如

この為に國民政府に於て、聯盟脱退ノ意圖無ク
目下ノ所抱迄聯盟ニ依賴シテ問題ヲ有利ニ解決
セシム試ミ居ルニ如シ

口、蔣介石、宋子文等國民政府要人に滿洲問題

解決ノ為先ヨリ本側ヨリ何等カノシエスナク

んヲ希望シ居ルニ如シ又山海關事件ハ地方

的ニ解決スルニ於て外部ヨリ滿洲ハ既ニ歸スル

力アリ取ルンヲ不承認スル為同事件地方的解決

ヲ遂行シ抗ハノ義ヲ確ケ居ルニ抗ハ運動ハ

内部的統制ヲ卸キ居ル様ニ大ニテ實行

増進シ云々

REPRODUCED BY

内閣外務大臣

上海

一月

年九月初九日
有若公使

第44号

英國公使ノ歸任ニ関聯シ最近ノ漢字紙中ニ

シシハ英國ノ在支利益擁護ノ為ニ多紛争ノ調停

ニ乘出サントスニ意嚮ヲ有る旨ノ消息ヲ得タル者

有リ又最近ニ路透社ニヤンセンニハ領事對シ相當信

頼シ得ル事情報ニ據レハ宋子文ハ次稿ニ上海ノ英人実

業家ヲケガウエツリテ各藩ニ派シ日支問題調停

ニ對スルヲ一急嚮ヲ探ラシタル旨語レニ趣一在

右調停説、関シテモ、イノグラム力極大、下

シテ、模造、録ニ、大要、在、一通リ、何、等、極、大、者

迄

學、良、ハ、最早、命、脈、無、テ、ハ、熱、河、問、題、山、海、関、事、件、等、ト、

涉、ハ、結、局、南、京、政、府、ヲ、相、手、ト、ス、ル、外、無、カ、ル、可、キ、北、南、京、政、

府、ト、シ、テ、此、等、ノ、問、題、ヲ、地、方、問、題、ト、シ、テ、部、分、的、ノ、解、決、ヲ、

ハ、困、難、ト、シ、ハ、ク、矢、張、リ、全、般、ノ、問、題、ト、シ、テ、支、那、側、ハ、

日、本、ヨリ、何、等、カ、ノ、シ、エ、ス、カ、エ、ア、シ、ク、期、待、シ、居、ル、モ、ト、シ、テ、如、

日、本、兩、國、ノ、對、ス、ル、英、國、ノ、友、好、関、係、及、調、停、者、ト、シ、テ、

ノ、人、物、等、ヨリ、鑑、テ、

日支間、グット、オライヤヲ提供シ得ル者ハ、
使ヲ置キテ他ニ適任者無シトハ、軍ニ自分ノ意見ナシ
ナラス。支那側ニ於テモ、ラレハ、出馬ヲ希望シ居ル向キ有
ル模様ナシ。現在ニ在リ。

(一) 支那側ハ、今尙聯盟ニ一掃ノ望ヲ懸ケ居ル事

(二) 孫科等ハ、蔣宋等カ日本ニ對シ讓歩ノ態度ニテ

エ見ル情ハ、直ニ廣東側ヲ率イテ反蔣ノ策動

ヲ為スヘキ氣配有ル事

(三) 殊ニ腹藏無ク申上リレハ、過去十八箇月間ニ於

ケル本側ノ實際ノ行動ハ、屬政府ヲボウケテ

言方相違いぬ。若し日本に對する世界ノ疑惑ハ相
對深し居るに如し此ノミストラストヲ永解する
更ニ千七百日本ハ今後ニ三十年間ハ悲常十の努力
ヲ必要トスヘキ事等ノ理由ニ依リ尙英國ノ日支
兩國ニ對する機微を立揚る有リヲトシテ假
令宋子文邊リヨリ一希望アリトスルニ調停等乘
出ス情機尙早チト考ヘ居リ

昭和八年

上海
二月
五日
午後
有吉公使

内田外務大臣

第七十七号

三日賀耀組ハ須磨對シ支那側ハ聯盟最近ノ空氣

ニ甚日不滿ナル腕退等ノ事ハ目下ニ考慮シ居ル

又唯熱河及平津ニ於ケル日本側此ノ上ノ積極的軍

事行動ヲ此ノ儘傍觀スルハ自較行爲ニモ等シキヲ以テ

日本軍ノ更ニ攻撃シ来ル場合ニハ来リ具體的防戦

計畫ハ無キモ然レ今如トシテモ國民ノ手前ヲミズメテ

北ヲ見据ルハ譯ニ下行ヤルヲ以テ勝敗ヲ度外視

この日本軍は一決戦を以て、高橋の極大防衛を以て、
議定書に於て、恒産を在り、如平を邦側、自暴自棄
十態度、却て曰く、間、紛争、増、東洋平和、大局上
不利、止、ミ、ラス、露、復、後、共産党、第、暗、中、形、理
ヲ、開始、廣東側、反、露、以、東、動、ヲ、為、居、在、間、
有、リ、戦、敗、ヲ、賭、シ、テ、迄、在、体、面、上、日、本、ト、戦、ハ、露、今、
一、為、採、ラ、サ、ル、迄、ミ、支、那、内、政、一、混、乱、ヲ、救、フ、為、大、事
北、一、問題、ヲ、地方、的、ニ、迅速、解決、ス、事、必、要、也、吾、等、
亦、在、此、處、實、ハ、外、間、露、支、復、交、後、露、一、密、集、政、策
的、傾向、一、為、其、匪、一、流、動、活、潑、キ、ト、一、風、貌、有、ル、在、ル、

之者、宣傳之事實、此又對廣東政策之関
心、最近、黃紹樞、派遣、依り、南京政府ト、其、既
辦法有リ、尙又、山海關事件等、地方の解決、関シ、其、步
那側、移年、最近、日本、對、其、政策、ハ、悉リ、軍部、依リ、指導、
セリ、居、其、感、觸、ヲ、深、ク、居、其、付、同、問題、ヲ、地方の、解
決、ス、其、於、其、人、更、ニ、其、一、方、其、一、問題、起リ、遂、ニ、其、何、端、ハ、問
ニ、其、平、津、地方、ヲ、席、捲、セリ、其、至、ル、ヲ、恐、レ、居、其、其、身、ヲ、
其、其、方、其、其、付、復、其、其、日本、其、外交、政策、ハ、決、シ、テ、軍
部、依リ、指導、セリ、居、其、其、方、其、其、官、民、一、致、一、國、語、
依リ、其、其、其、其、居、其、其、方、其、強、制、シ、置、テ、其、趣、キ、
以上、何等、其、其、考、迄、

南京
二月
十四
前
著

上
村總領事代理

音
ン
ゴ
ソ
ン
ン
石俣ト
会
談
際

[illegible]

○得サリン者、詳細な點、充分了解得た點有りトテ、價額

本官從來經緯了說盟已日_n上聯盟宛貴電

邦之参閣下ヨリ英國大使ニ告入リタル文章ヲ

讀
解
之
加
統
明
心
日
心
慈
了
瓜
快

1. 夾 \vee
2. 千 \vee
3. 解 \vee
4. 然 \vee
5. 滿 \vee
6. 洲 \vee
7. 題 \vee
8. 對 \vee
9. 南 \vee
10. 高 \vee
11. 山 \vee

第一、關於強硬手段上廣東方面之空氣之原基日已
有樣子之依り和協委員會力成其日支直接交
涉ノ端力開カレタリト云々其那側ハ真向ヨリ滿洲國結
立ヲ否認スヘキ事明カナル處此間如何ニテ和協途
ヲ見知シ得ンヤ目下ノ南支一空氣ニテ第一五條第三
項ニ依リ決議第一廿八反對文ニト思ハント述ヘヨ
依リ本館ハ支那人ノ性格トシテ外國ニ賴リ得ル
心ニ無キ強カリテ言ヒ其ヲ以テ其ノ制定政策
ヲ採ルヲ信ス統トシテ東ノ事御承知通ナルカ
如ク如キハ日支直接交渉ヨリ外ニ解決ノ途無キヲ

承知し居り唯國民カ外國ニ頼り得んモノト考へ強
カリテ云ハ居る問題ハ包ムナリ靜觀シ居ル必要ナリ
故ニ聯盟カ日支直接交渉ヲ外無キナリ明カニ此
邦人、強カリテ漸次譲ムヲ冀望シ問題解決ノ真
中關心來ル次第ナリト一趣有テ執行鏡鑑シヨムヲ采
レモ尤モナリト會中居リテ尚タイクンモ別ノ機会ニ本
官ニ對シ南京ノ空氣ニテハ和協多數會成立スル
日支間ノ滿洲問題ヲ解決スルノ望無カニ可シト述
ヘ居タルニ願ミ支那側トシテ使ニ對シ飽迄滿洲
國ノ獨立ヲ希望シ直接交渉ヲ望無キニトテ強調シ居

ニト思ハル

一、次イテ、公使ハ熱河問題ヲ滿洲國ノ國內問題

ナリトス。日本ノ主義ハ自分ニハ良ク了解セラルル程

ナリ。此問題ニ對シ南京側ノ態度ノ強硬ニシテ尤

舊ノ居ニ模稜ニシ聊カ驚キヨリ熱河ノ現状ニハ

本カ早晚軍事行動ヲ採ルハ已ム無キニ至ルナキハ

自分ニ想像シ得ル次第ナリ。武力ノ行使ハ遲ン

ハ遲ン程結構ナリ。南京ヲ現在ノ空氣ニテ突如

熱河ニ對關開始セシカ成行心配ニ堪ハスト述ハ

ル。然レ本宮ノ學長、挑戰的態度及我方ノ隱忍

藤山が、説明するに、其の萬一、事なりと云ふ學長
の、勸告は、自己の運命、及び日本と戦つ程
要藤山に思ふ、又南米、要人連、外國側、對、極
端、主義、説、ヲ、ナス、ハ、其、方、の、政策、的、の、意味、ヲ、平、ト、思
ハ、ル、ト、述、へ、置、キ、リ、

八月

上海

二月十一日
後藤

内日

有吉山使

第九三一

日支問題 二問題 二問題 十一日黃字、領標、對

右、談話、大要、左、通、右、付、單、二、慎重、考量、可

加、一、半、筋、右、十、元、不、取、散

一、藉、介、右、二、日、支、關係、三、如何、二、三、打、開、意、力、大、二

甚、意、已、居、二、元、何、分、日、本、一、積極、的、軍事、行動、二

在、止、二、三、所、三、知、三、其、三、為、國民、三、存、日、的、感情、三

以、幕、り、来、り、若、二、三、日、本、側、二、對、二、何、等、二

働ヲ由ルヲ如キ事アリ遂ニ其地位ヲ廿八失
フニ至ル懼アリ目下遂ニ暮レ居ル次第ニテ最近
蔣ヨリ自分ニ對シ敬同ニ為リ日支關係打開策一
案見方依頼シ來レルカ自分ハ曩ニ濟南事件ニ際
シ賣國奴ノ汚名ヲ被リ今尙其態度親日的ナ
トテ右様ノ脅迫絶ヘサニ程々日支問題紛
糾ノ今自分ハ決死ノ覚悟ヲ以テ問題一解
決ニ盡力スルニ決意シタル次第ナリ即チ腹藏
ナリ申上レハ國民政府ハ固チ崩壊ノ狀
態ニアリ從テ甚シ日本軍ニシテ欲スルニ於テ

ハ熱河ヲ席捲シ東ニ進シテハ全支軍隊ノ武装
解除ヲモ爲シ得ヘケシモ如何ニ日本軍ト雖モ支那
四億ノ民ハ如何トモ爲シ難カニヘリ日支問題ノ
紛糾ハ結局東洋以外ノ第三國ヲシテ漢夫ノ
利ヲ得シムニ過キヌ又支那トシテモ徒ラニ聯
盟ヲ轉ニハ得策ニアラン此ノ際斷然リ支直接交
渉ニ依リ問題ヲ解決スルニ必要ナリトノ結論
達シ張群トモ穩ニ相談ノ上直接交渉スル
前提トシテ左ノ如キ試案ヲ得タリ
熱河ト東支南トノ間ニ適當ノ自然ノ境界ヲ物

✓在ノ境トニテ兩軍トモ敵對行為ニ出テ甘々事

(二) 小海關ハ條約上日本天津駐屯軍ノ管轄地域ナリ

關東軍ハ關外ニ撤退シ同方面ノ治安爲ハ中村司

令官ト友好關係ニ在リ周龍光ノ部下ニ支那敬告寮官ヲ以

維持セシムル事

二 依テ復舊ヨリ國民政府ヲ目下假令無統一ノ狀態ナリ

ハ云ハ若シ蘇方取リテ日支關係打開ニ付誠意ヲ有

スルニ於テハ此ノ際ニスポーツニレリテ一號ニ出テ

適當ノ責任者ヲ通シ直接交渉ヲ日本ニ嘆願シテ

如何ト反問セムニ對シ黃字ハ支那側ノ日支問題ニ

對スル態度ハ變換シテ前目下全ク反動的ニテ支那側ヨ
 リ直接交渉等ヲ切リ出ス事ハ自輕行為ニ等シク
 自然論者此ノ勇氣ヲ失フナレバ日本側ヨリ以上ノ如キナ
 レテ交渉開始方ノ形式又ハ根本式ノ意思表示セウ
 セウレ度リ若シ存依リ兩軍ノ戰鬥ヲ停止セシメ得ン
 事ハ一瞬ニテ滿洲問題ニ付トカ解決ノ途ヲ發見シ得
 ヘク存付テハ終ニ一考察アリ信（キ）カ全然自命一己ノ思
 付キヲ云ハハ例ハハ海儀執政ハ世襲ノ莊主ニ付ケルヲ以
 テ適者ノ修養ヲ令シテ支那側ニテ學ケル如キ人物ヲ擡
 升支那側ノ面々ヲ其ノ元一策士ヘリ又若シ日本軍力前

記境界ヲ境トシテ此ノ線以上熱河ノ侵略ヲ許ス事ヲ
聲明セリ又邦創ニ於テ右聲明ニ充分信頼シ得
至リハ兩國民間感情ニ次第ニ融和スヘキヲ以テ
際ニ滿洲國ノ問題ハ暫リセツト、アサイトシテ之
觸レサルヲモハ出来得ルニ
最近屢々故西中將實地日本側有力者ヨリ蔣
對シ武器金錢等ノ援助案ニ關シ申出テアリタム蔣
ノ立場トシテ此ノ際日本ノ援助ヲ受ケル譯ニハ行カ
ズ又蔣ノ物質的援助ヨリハ日本軍力此ノ上ノ侵略
的行為ニ對テストノ保障ノ方ヲ希望シ居ル次第ナ

若し日本より右保障ヲ守リルニ於テハ自ラトシテ之ヲ

骨幹身問題ノ解決ニ當リテハナリ

三、熱河ニハ目下十五萬ノ支那軍隊アリ中ハ萬ハ馬占山

馮占海ノ部隊ヲ殘リハ湯玉麟ノ麾下ニテ最近

雲南ニテハ唐ノ學良軍ノ熱河特動隊ノ要良ノ中央

對スル雲南ノ之ニテ同大ノ軍隊ニテ熱河ニ在ルハ僅カ

ニ祇ニ過キス從テ之ヲ等十五萬ノ軍隊ハ日本軍熱河攻

撃ノ際ニハ適テ場ヲ失ヒ死者狂々ニ抵抗スリ日本軍ト

シテモ大ノ犠牲ヲ蒙ル也然レハ力ヲ又日本軍ノ熱河

占領ノ終局ニ至リ問題解決ノ最後ノ切札ヲ失フ

セウナン下部地ノ境入ス

嘴ノ素地ヲ作ラント下心ヲ有ス趣ニテ存事實トス
支那一日貨排斥等ノ程チ少ナク問題ニテ東洋平和
為ニ兩國提携シテ外力ニ當ルニ必要ナル次第ナリ自
今日本軍ノ熱河武力解決ハ兩國ノ空氣ヲ益々惡
化セシメ直接交渉ノ端緒ヲ全然刈取ルモノニテ東
洋ノ政治問題ニ関スル重大問題ナレハ悉ク在リ
依リ交渉ヲ開始シ得ルキ見込ニ於テハ自今
南昌ニ赴キ之ニ對スル親善ノ意圖ヲ露ト探リ見
積リテハ前記自今ノ微意ニ對シ日本ノ政治
家ハ此ノ際南昌ヲ觀シテ何等カノ意志表示ナ
ル

昭和八年

南条
本島

三月九日
後藤

内田外務大臣

上村總領事代理

第五七号一

出張中、復讐書記官の對、
日、回離文轉、何時、無

り沈痛たる事情を左に通り内証せし趣き

一、熱河ハ少くも二箇月ハ大丈夫と思ふ、斯ニ短期

間ニ片付けられんハ實ニ驚き外無き事

本力此際餘程ノ決心ヲ以テ熱河ト北支トノ機

微々ニ關係ノ整理ニ當リ、甘々ニ移シ、勢ノ趨キ

實ニ憂慮ニ堪ヘ甘々結果トモナシ、付是北支

除外¹?

良¹加減²の日支事件¹結末²邁進³の⁴度⁵年⁶に⁷て

り更²に打³明⁴け⁵て云⁶へ⁷ハ東⁸亞⁹商¹⁰や熱¹¹河¹²の領¹³土¹⁴ハ東¹⁵ハ

問題²ハ³や⁴う⁵甘⁶ん⁷毛⁸日⁹本¹⁰の態度¹¹カ¹²支¹³那¹⁴人¹⁵民¹⁶の面¹⁷を¹⁸子¹⁹孫²⁰

に迄²極³付⁴け⁵ハキ⁶工⁷ン⁸ミ⁹テ¹⁰一¹¹力¹²由¹³に¹⁴キ¹⁵大¹⁶事¹⁷十¹⁸ハ¹⁹之²⁰ヲ

除²外³の⁴得⁵人⁶キ⁷永⁸久⁹的¹⁰の¹¹解¹²決¹³方¹⁴策¹⁵ヲ¹⁶百¹⁷毛¹⁸達¹⁹の²⁰見²¹出²²シ²³度

キ²⁴セ²⁵一²⁶チ²⁷

二²張³の⁴良⁵の⁶對⁷シ⁸テ⁹ハ¹⁰分¹¹ヲ¹²數¹³回¹⁴辭¹⁵職¹⁶ヲ¹⁷勸¹⁸告¹⁹シ

居²タ³ル⁴起⁵愈⁶實⁷現⁸ヲ⁹模¹⁰様¹¹ナ¹²ト¹³其¹⁴下¹⁵略¹⁶後¹⁷暫¹⁸ク

ハ²委³員⁴会⁵様⁶一⁷毛⁸一⁹ニ¹⁰テ¹¹急¹²場¹³の¹⁴處¹⁵理¹⁶ハ¹⁷當¹⁸ヲ¹⁹シ²⁰ト²¹條

に²後³任⁴者⁵ヲ⁶定⁷ム⁸ト⁹ト¹⁰ナ¹¹ル¹²ハ¹³リ

又十七日頃看滬一管古汪精衛八假之健康カ訴スト
又此一際直之行政院カ之復職スハキヤ相当疑問
ルミナス又數箇師團一地上ニ依リ江西省共匪ノ進
出等内政上幾多ノ難關ハ隱ニ傳カルカ自今ハ解職
ルカ限リ飽迄日支事件ノ解決ニ當リ度キ所存ナリ
尙ハ日米家驊ニ復職ニ對シ聯盟ニ依リ解決望無キ
日支直接交渉ニ依リ外無キカ日本側ヨリ真心
坦懷達ニスニ乘リ出カルニ下切望ニ堪ヘスト線迄
ハ所日ハ趣ニテ羅、朱兩部長トモ餘程弱リタル風
ヲ隱ニ傳カルカ見察ナリ日ハ趣ナリ

昭和8

南京 三月十九日 前後
本省 前着

内田外務大臣

上村總領事代理

第一六二号

德電第一五七号ニ関シ

八日羅文幹一呼寄シニ依リ在留セルハトシ九日須磨

ヲ来訪シ昨八日東京同ニ互リ羅部長トは支那商解

決方ニ関シ意見ヲ交換シタル次第ト冒頭ニハ

羅ヨリ冒頭修電ハ羅一須磨ニ對テハ談話一次知ヲ

取リ羅ヨリ在留關シ諸ノ進言様旨ヲ含メタルモノ

如何觀テタル由熱河ニ於テハ日本軍ヲ敏速ニ

行動之支那側ハ全然果敢ニ取リ合ハル如ク自然日
支問題ニ関スル政府部内ノ意見大ニ後移セリ日
本ハ之を取敢セリ之ヲ付テハ全然「フライバイト」ノ態度ニ
于意見ヲ交換シ度キ以テナリトテ左ノ通り会議シ見
趣ナリ

一、羅部片ハ日本側カ滿洲國ノ存在ヲ抗日運動ノ停止
ヲ主張シ居ル點ヲ新ニシ居ルカ飽迄在リ點ヲ固執
セリ之ハ初メハ支那側ニ降服ヲ要求スルニ外ナシ
（八）日羅ハ復舊ヨリ日本從來ノ態度ヲ繰返シ日ハ要求
シ日本ハ支那「サレンダ」ヲ豫期シ居レリト云

歟笑ニ居ルニ符石ス（斯ナハ圓子ヲ集メタル支那ノ態
 ニ傷ムキ能ハズ非ス何處カ他ニ御座ルヲ加ムニ直接
 交渉ニシテ一端緒ヲ作シ問題數キヤ日本ハ聯盟ニ於
 ケル討議ヲ承引キ得ルハコソ当初ニ於テハ思ヒモ容易
 リニ滿洲國ヲ生ミ得ル次第ニテ日本ニ取リテハ天
 佑トモ云ヒ得ルキ有利ナル發展ヲ為シウツルニ目途
 事件ノ解決ニ関シ一審支那ノ面子ヲ考ヘラレシム
 如何ニヤト審査セルニ付復然然耳全然個人的ノ意
 見ナカト前提シ其間日支直接交渉決ト稱スル
 毛法律的身地ヨリ也ニカ滿洲國ハ日本ノ親戚ニ係

立派な國際法上一國家ヲ形成シタル事實ニ鑑ミ滿
 洲問題ノ関シテ角日支間ニ論議スル事柄ナリ自
 然所謂直接交渉ノ對象ヲ見做スニ甚シム以テ十
 リ最近海關事件ニ付之ヲ地方的案件トシテ交渉
 スルノ用意アルト既ニ表明セシ通り十ニ上排日排
 僑ニ付尚幾多支那側ニ要求スル事柄ナリ
 右ニ付當該日本官憲ヨリ夫レ既ニ「アプロ」ナレ居ル
 事ナリト答ヘタルニ「成程法律的ニ言ハハ支那ヨリ
 滿洲ニ付テ為スル事要求ハ御説通滿洲國ニ付テ
 一為シ得ル事カ日本トハ直接關係無キ事トモ言ハ

MARUZEN III

下宛電報第五七号御参照)熱河問題片附本日
 日適用し得ん付其後續々考慮し結果自有限
 り案出さん處に對し日本力現在滿洲國ト一問有
 諸協定ハ其ト倭ト滿洲國ト之交那側ト一問在
 ト略同様一取極ラ為サシト謂ハハ後年一木
 ハンワエゴビト地方力有ヨリシトミニ才ニ様ニ
 理方法性ハ我慢出来間敷キヤト尋ネル付續磨
 ヲ滿洲國一存在ハ日本一諸協定ニ依リ今其
 輪廓確定シ(脱)御親一如キ法案ニ依リ更改
 否ハ不可然ヤト思考サ答ヘルニハハ当惑ニ

面指^ニ再考^シ日^ニ上^ル意^ニ果^シテ右^ノ如^ク果^シテ相^ノ談^ナナ
 日本^ハ支^ニ那^ニ對^シキ^ニア^リト、テ^ニイ^フ、一^ノ策^ヲ執^ル
 三^ニ見^ル地^ニ滿^洲國^ノ成^立代^ニ中^ニ何^ノ等^ノ重^大ナル
 利益^ヲ附^与スル^ニ一^ノ用意^無キ^ハ例^ハ自^ラ一^ノ研^究
 依^レハ一^ノ九^〇一^年一^ノポ^ロト^コ一^ルニ依^ル日本^側一^ノ利
 權^ノ放棄^ニ治^外法^權撤^廢三^ノ租^界一^ノ還^還回^船
 船^内河^航行^權一^ノ還^還等^一中^一ニ^テ實^行ス^ル事
 ト^ニ事^實滿^洲國^ノ問題^ヲ一^セウ^ト、ア^サト^スル^ニ如^ク
 中^ニ於^テ案^ハ如^クト^ス事^ナリ
 依^レ今^ノ機^會一^ノ御^裁一^ノ如^ク滿^洲國^ノ問題^ヲ一^セウ^トア^サト^スル^ニ

二十一年滿洲問題、關之曰支兩国力過去若干數年
之變、ト、ト同様、總社之仍、實質上不問、
付スル事ハ自今、於今又密カニ考へ居ル一案ナリ、御申
知、如平四項、何レカ、ニ、支支那側、身ヲ、中、右
ヤ、問題、ヲ、考慮スル、前、先、以、念、頭、ニ、浮、ト、ハ、支、那、中、央
政府、ノ、ソ、リ、リ、リ、リ、ナリ、即チ目下、如ク共產黨或ハ
廣東等複雜ナル内政上、新威堪ハサル、今日此、一、供
ニ、予、何、等、ノ、結果、ヲ、進、ハ、ル、事、ハ、世、界、何、レ、一、國、ニ、於、テ
モ、躊躇、スル、譯、合、ナリ、ト、應、酬、シ、タ、ル、ハ、實、ハ、熱、河、ニ
於、テ、モ、意、想、外、ノ、敗、北、ニ、依、リ、南京政府部内、ノ、弱、點、早

ノ暴露シ宋子文等ニ對スル反感廿ハ都内ヨリ持
上リ居ル實狀ナル御説ニ次ギハ尤モナル自命
キ支那滞在ノ経験ヨリスルモ支那側ノ自力ニ依リ
強力政府ノ確立ハ餘程ノ年月ヲ要スルキ力故ニ
自命ノ案案ハ四一、二ヲ与フ事力即チ南京
政府ヲ強化スル所以トモ古來第一ノ要點ヲ
是非其慎重ニ御考慮セヨ速ニ日本側ノ同情ハ
一ブレヲ切望スル次第ナリト熱心ニ述ヘタリ
四、依テ復應ヨリ夫レニ對シテ南京政府ノ見据
中ニ付キ難キニ付先ツ南京側力頼心ヨリ日本ト

1 樞手ヲ切望シ進ケ其ノコトエスヤトシテ来ルハ
 時期ヲ待テ事必成ルハト述ヘタルハハ支那
 側ハ敗殘者トシテ何等ノコトエスヤトシテ先以侵略者
 タル日本側ヨリ爲サレキヲ期待シ居ル譯合タルカ相違
 1 時期ニ達セハ日本側ヨリ何等申出ラレキ用意在
 ヲト爲サレキ付録磨キテ前述(一)ノ通法律的ニ謂
 ハハ直接交渉ノ對象ヲ見出シ難キニ日本側ヨリハ
 1 之ニ得ルハ謂フ迄モナシト答ルタルハ然ラ
 ハ滿洲國側ヨリナリトモ新合一端緒ヲ知サレタ
 スヤト問ヘンニ付復磨キテ在ハ然滿洲國側ノ決定ス

へ本所
 十んハ
 五ト午中
 に困難
 十んへり
 要する
 の前
 述一
 如平考
 意一
 下、暫り
 勢ヲ見送
 る事必要
 十んへんと答
 へ問答
 打切り
 二二
 パハ本
 日の更
 二段は私
 的意見
 見、毎換
 了續々
 成すト述
 へて引取
 り日、
 趣き御
 如才幸
 事乍ら
 本会誤
 全然極
 秘トせ
 らる度
 可

有吉人伴

南京 閣下 宛電 報 牙 一 次 二 号 2 月 庚 乙

十四日 卜 一 復磨 3 米 約 2 目 今 八 九 日 南 高 2 所

4月 貴官卜、會談後、田徑部長ヲ訪問シ、日本側ニ於

千人 李那内政 / 紊亂ハ日本ニ取リテモ不利ナレハ也

那中央政府，
強化了最希望文
化上的支持那

側力現不盡十心態
度今改×甘ん限り不愉快

現状ヲ維持スル已ム無キニ過キザニ負テ莫ク確

十日午二時、ハ、その側、於テモ要機、其ハ、排、ハ、
 止、日、支、關係、ノ、打開、ヲ、計、ハ、事、必要、ハ、旨、ヲ、説、シ、ハ、
 羅、部、長、モ、之、ヲ、肯、シ、居、ハ、ハ、自、分、ノ、觀、測、ハ、依、ハ、
 目、下、支、那、要、人、ノ、最、モ、苦心、シ、居、ハ、ハ、如、何、モ、ハ、變、論、ノ、支、
 持、ヲ、擔、ヒ、ツ、面、多、ヲ、失、ハ、ス、シ、テ、日、本、ト、妥、協、シ、得、ハ、ヤ、
 點、チ、ト、認、メ、ツ、ハ、ハ、最、近、日、本、ヨ、リ、ノ、情、報、原、ハ、日、本、側、
 ハ、長、城、ヲ、緩、衝、地、帶、ト、シ、テ、停、戰、協、定、締、結、ノ、意、圖、ヲ、
 有、ク、モ、ウ、ン、ハ、ハ、一、如、キ、モ、國、民、政、府、ヲ、シ、テ、妥、協、定、ノ、締、
 結、ヲ、應、答、シ、テ、滿、洲、國、問題、ノ、ハ、也、ツ、ト、ハ、サ、イ、ム、
 ヲ、得、也、シ、ム、ハ、日、本、ト、シ、テ、モ、之、カ、代、償、ト、シ、テ、

最之御詔ニ如ク四項（一）ハ其ノ後考案ノ結果在
 四項以外日本ニ於テ對テ借款ノ一部抽棄ヲ宣
 言セラルル一案ナリト附言セリ（二）付好意の考慮
 ナルハ事絕對必要ニテ右交換條件無ク
 シテハ軍ニ國民政府ノ不承認又ハ面子ノ問題以
 外聯盟過般ノ決議ニ微々ニ餘リニ屈伏のハ
 解決ノナリ到國ニ對スル來前カクニ支那側トシテ
 ハ到底中々ニ得サニ次第ナリト認ムルニ付復蘇
 日ノ表ニ御詔ノ如ク事實國民政府要人連力進
 出時下ヲ抗日ノ愚ヲ自覺シ來レリト也（三）此ノ際先ノ國

民政府ノ内部ヲ統一シ
然其ノ前兆ヲ悔ヒ思
切リテ日本ト諾否ヲ始
ハ誠意ヲ相懸スルニ必
要ナリト答ヘル云々

ハ強他ノ藉ヲ借ヒテ適此者無ク結局支那内

政ノ混乱ヲ救フハ日本側ニ於テ藉ヲ援助セラル

ヨリ外良策無キ今日ノ情勢ニテハ國民政府ニ

於テ何人モ違フテ日支關係ノ打開ヲ主張シ得ン

者無ク要ス如何ニハ變遷ニ逆ハス且面子ヲ毀損

セタルヲ直捷に海ニ轉換シ得ルヤ一方策ヲ究ム

スルニ於テト述ヘルヲ以テ復々聲明アリ日本側トシテ

國民政府要人等、於此進シテ誠意ヲ披瀝セサ
ル限リ右種換方策ヲ考量シ得サニ地位ハ予ニ事前
述ノ通ナル至然自石一個ノ當座ノ思付トシテハ例ハ
ハ義々日本通商條約廢棄問題ニ關シ取リカニ力
如ク日本支取問題ノ善隣關係ニ鑑ミ一掃滿洲
問題ヲセツトヤサイトト素直ニ出ツルカ或ハ妙
等權限ノ極ハ三サニ日本共同委員會ノ如キモノヲ設
ケ問題解決ハフオーミナラシムル家セシムトカ一方
法ニ依リ漸次兩國間感情ノ鎮靜ヲ助成スルコト
一案ナル可ク右等ニ付政府責任者ヨリ進シテ何等カ

齊

昭和八年

南京

三月

平首後署

内田外務大臣

上村總領事館

第一八九号

往電第一八八号会談之際彭學沛ハ曰支問題ニ付

汪精衛ト蔣介石トノ間ニ何等意見ノ相違無ク現状

ニ於テ長城方面ニ中支地帯ヲ設定スルカ如キ諸君

ヲ日本トノ間ニ始ムトハ全然知ラズ無キ處ナリ尤モ

獲得ハシトシテ熱河奪回ノ不可能ナルヲ以此ト日本

ト武力抗爭ヲ為スルトハ不利甚クナリ良ク承知シ

居ル次第ニ付長城ノ東部ノ戰線ハ漸次平靜ニ歸ス

へり結構見や正式に諾后に於て其トモの互に双方一人
の接觸に依り長城一帯の線に於て衝突ヲ起す下無
中様方法ヲ講各事モ出来得へし然し滿洲問題ニ
付形式上丈ニモ其那一面目一處ツカ如キ案ヲ得ルニ非
甘ん限り日本ト直接交渉スルヲ得ス又目下信義ヲ
ハ滿洲問題ヲ一セイト、アサイトシテ他ノ問題ニ付ハ
本ト交渉スルハ中央政府カ日本ノ援助ヲ受ルニ如
キ事モ出来得ん次ノ第十ニテ以テ滿洲問題ニ付ハ
本側ニ於テモ多岐ノ方法ヲ考慮スルノ事ヲ希望
ス堪ハスト述ヘヨリ

右ニ對シ本官ハ滿洲國ノ独立ニ付テハ日本ノ對策ハ始終
 一貫シ居リ妥協ノ餘地ナキト御承知通りナリ且萬ハ
 支那側ニ於テ是非ハ抗日運動ヲ漸次抑制シ與論ヲ
 鎮靜ヲ計リ日支間ノ空氣ヲ緩和スルニ依リ滿洲問題
 直接交渉ノ機運ヲ醸成スル様努力スルヲ外ナカ
 ハ申付述ヘ置キ且力ヲ盡シテ滿洲問題ニ對スル汪
 精衛派ノ意向ヲモ反映シ居ル事ト思ハルニ付御参考
 迄

内田外務大臣

第二二三号一

三日本官汪精衛ト会談シタルカ録日支ノ關係ニ及ラセ

汪ハ自分ノ日支ノ關係ト必ス軌道ニ戻ラサシムヘカヲサシナリト

確信シ居リ然レトモ目下ノ狀態ニ於テ急ニ軌道ニ引戻

スルトハ甚ク困難ナリ情ノ経過ト共ニ日支間ニ新合出

束縛ニ機層ノ出現スルヲ待ツノ外無カシト一趣言ヲ

述ヘタルニ依リ本官ハ御説ノ趣旨ニハ同感ナルカ只

日支間ニ新合ノ出現機層ノ出現ヲ漫然待ツト餘リ

南京 四月三日 後 著
本報 前著

上村總領事代理

消極的の事寧く自分等ハ貴院長カ斯克の機運ノ醸
成ニ付積極的の努力ヲ拂ハシメトテ期待シ居ルモノナリ
御承知ノ通り目下支那ノ新聞ハ積極抵抗トカ抗日
トカ盛シメ人心ヲ煽動シ居ルミナラス最近各地ニ排日
不法行為頻出セリ然レトモ抗日ニ依リ滿洲ヲ奪得
同ノ排日ニ依リ日本ノ經濟的打撃ヲ受ク得ルモノナ
ハ貴院長ニ充分了解セシ居ル處ナリミナラス又
右ノ如キ一方ニ於テ今日支人感情ヲ不當ニ刺戟シ兩國ノ
關係ヲ愈々險惡ナラシメ地方ニ於テハ支那人心ヲ昂奮
セシメ所謂獨斷ヲ硬化セシメテ政府ニ支拂ヲテ屬

困難ナラシムヘシ 排日抗日之依り大打撃ヲ受クルハ
實ニ日本ニアラスシキ支那自身ナリ依テ貴院長愈々
復職セリシムニ付自分等ノ期待ヲ裏切ラサニ様曰
支ノ大局ニ顧念シ漸次排日抗日ノ取締ニ手ヲ着ケ要諦
ヲ鎮靜ニ導キ以テ日支關係ヲ軌道ニ復スル爲メ地均ニナ
ス様積極的努力ヲ拂ハシメントテ希望スト述ヘリ
汪ハ排日抗日ノ運動ヲ急ニ取締スルハ困難ナルカ自分
ノ出来得ル才力ヲ著ク續リナリト答ヘ何語モナ
カク明確ニアラスシキ大體總健ナル意見ヲ述ヘ居リ
尚モ排日抗日ノ順序漢口五福社ニ於ケル排日

一狀況ヲ述ヘ汪ノ海意ヲ喚起シ置キ日ノ（右）
汪ノ立場ニテハ公衆見合ニモ度々尙本官辭去後通
当地電通特派員汪ニ會見セリ（右）

八年

北平四月二十六日午後
本省

内田

中山書記官

一八五号一

平之自佛國公使、希望之依り、会見、同公使より最近ノ

戦況ヲ對ネタニ、付在般の說明ヲ與ヘ置キタル公使

ノ最近支那側ハ日本軍ノ壓迫ニ徴リ最早停戦ヲ希

望シ居ル由タルカ日本側ニ對シ何等ノテメーケトシ

ヨシキヤト問ハルニ付本官ノ限リ全然トシ

ト答ヘ置キ、(日)公使ハ支那側ニ戰鬪ヲ繼續スル意

思ハルカ、日本側ハ如何ナル條件ナリト停戦ヲ同

意也。之。下。問。へ。之。付。本。官。ハ。我。政。府。ハ。停。戦。ヲ。目。下。
ノ。事。際。ニ。於。テ。考。慮。ス。ル。ヤ。否。ヤ。ヲ。最。知。也。又。從。テ。條。件。
等。千。七。五。然。承。知。也。其。ハ。然。十。力。私。見。ト。モ。テ。常。識。ヲ。
言。ハ。ス。者。已。支。那。側。力。戰。闘。ヲ。欲。セ。ル。ハ。其。ヲ。引。ケ。テ。
十。ト。思。考。ス。ト。述。ヘ。ル。所。ハ。條。ハ。支。那。側。ハ。面。子。ヲ。
重。シ。ク。シ。付。何。能。迄。引。リ。カ。問。題。云。々。(七) 平。宗。忠。等。
ハ。停。戦。運。動。ニ。就。テ。ハ。重。要。十。人。物。十。リ。孰。レ。ニ。シ。テ。モ。
明。日。ノ。早。方。日。支。那。人。又。ハ。ア。サ。サ。ト。ピ。ー。ア。ン。ニ。會。ヒ。ル。上。等。
ニ。詳。細。御。話。ス。ル。ト。言。ヘ。リ。條。子。本。官。自。リ。附。リ。在。之。條。
レ。ハ。目。下。支。那。側。内。政。關。係。ニ。於。テ。後。雜。々。ノ。事。情。

中々如ク一面ニ於テ此ノ機構戰運動拾頭シ居ル事
 實ニ於テ中央軍ハ舊ハ準備ヲ整ヘ居リ又古北口方面
 ニ於テハ過去ニ週間内ニ三回逆襲ヲ試ミ且ハ事アリ
 即チ支那側ハ左ノ一岸系統ヲ擬シ右ノ一岸ヲ伸ヘテ振
 手ヲ求メトシ居ル状態ナリ斯レニ複雑ナル内政ノ紛キト
 若シ外國人ノ行動スルニトハ極メテ危險ニシテ日本側ヨリ
 觀シハ停戰問題ノ如キモノハ一多難業ヲ以テ支那側
 ノ申出ト觀シヤサニ疑問トスル處ナク閣下ハ如何ニ觀ス
 ムヤト問ヒタルニ之ノ回答ニハ難色アリ且ハ遂ニ「オフ
 イジヤリイ」ハ四維文幹中ハ「オ」ト云ハルニ付羅ハ当

石俵、所謂「アザ」
又ハ、炭米、石俵、
意味、又ハ、
如ク、感、
模、
親、

年

癸卯四月廿八日

月

中山書記官

牙六八号

二十八日 耿 耿 堅 白 一 内 話 一 概 卡 何 應 欽 八 劉 崇

傑 一 名 今 以 于 二 十 七 日 晚 聚 餐 一 英 米 佛 之 國 公 使 了 招

待 日 在 間 停 戰 轉 旋 方 之 付 銀 錢 也 凡 力 陳 公 情

黃 紹 樵 商 製 宋 哲 元 龐 炳 勳 等 七 同 席 之 席 日

趣 十 一

八年

本九省江

十月

十月十日
十七日
前着

廣田外務大臣

西田事務代

第一三五号

数日前本邦人。川喜三郎（住留大阪市タイシヨ）

田イロ中町一丁目五東京市麻布区御衣町十次

十者外々三名当地着般如耕ト其イ廬山

赴中何事カ密議シツツアリヨカ折柄新介右毛

江南昌ヨリ飛行機ニテ来着イ更ニ江精衛ニ南

京ヨリ来レルニ付彼是照会イ何等カ当局ニ関係

ルモノト認メ注視中一途同人等本十者下ル也

付乗船前分階合見シ今回来タ廬ノ用向カ精汪
等ト面談ノ有無問合セリト是處同人ハ實ハ自分等来
支ノ目的ハ有否否使セモ打明ケ居タリ次第トハ絶
對ニ極秘トセリ度ク萬一中途ニ於テ自分等ノ企圖
カ世間ニ漏洩スルニ於テハ單ニ今日迄ノ努力カ水
泡ニ歸スルノ事又日支双方ノ為ニ不利ト存スルニ
付是非極秘ニ態度シト再三念ヲ押シタル後概
要左ノ通り内報セリ
内田良平等ト昨晚懇ニシテ又新所存、汪精衛
等トモ舊知ノ間柄ナカ内田ヨリ日支關係好轉

セサレタリ何等カ接近策ヲ講スルニ必要ナルハ
現下ノ狀勢ニ於テハ日支官憲カ表面ヨリ打開策
ヲ講スルコト到底不可能ナルニ付渡シ上蔣介石面
會シ同人ノ直意探知旁ニ打單解ケテ懇談シテ
ハ如何ト勸メテ來去シタルモノニテ殷汝耕ハ通譯
譯トシテ地平ヨリ時客ニ更ニ張群ヲ漢口ヨリ招
キ懇談シタル次第ナルカ蔣介石ハ我陸軍ノ遣
口ヲ頗ル氣ニセルカ如キ口吻ヲ漏ラシタル上蔣トシ
テハ日本ニ接近シ度ニトイフナリニ付自分ヨリ
我陸軍ノ行動ニ付體ニ說明シタル上貴(下)

御意見も略々判明せむ付此際一切ヲ打明ケ
日本ニ送ラレル事トシ其ノ證左トシテ密使ノ如キモノ
ニテモ派遣セラル事ト如何ト斷タル處難キ之ニ續
成ニ結局張群、軍政部長陳儀、同曹浩森
錢大鈞ノ中ヨリ一名派遣スルコトナリタリカ
分陳儀ノ選任セラル事トナリテ密使渡日
後ハ廣田大臣ニモ個人的ニ面会スルコトナル
事ト述ヘラル付更ニ小官ヨリ汪精衛ノ意見
ハ如何ナリシヤト尋ネタル處餘リ意見ヲ吐露
セサリキト語レリ尚筈ハ廣山ヨリ蔣ト面会シタ

ハ旨有者瓜俵ニ電報ニ置キリト語レルカ最
後ニ重不子小宮ト一合談ハ絶對ニ極秘トセラレタリト
懇請ノ次ヲモリ外部ヘ一発表ハ御見合相成度

一

本九省江

十月

十六日
十七日
前
後
着

廣回外務大臣

西回事務代理

第一三六号

往留第一三五号

選川上圖談、際、小官、同行者中軍人、下居

廿、中、聯、又、今、同、渡、步、一、目的、ハ、支、那、側、ハ、飛、行、機

等、廣、近、一、為、之、報、又、中、聯、系、ハ、同、人、ハ、何、是

之、中、聯、系、ハ、同、人、ハ、何、是、在、陸、軍、武、官、一、機、作

レ、同、武、官、之、行、中、ハ、元、陸、軍、航、空、本、部、長、古、岩

清、中、聯、系、ハ、同、人、ハ、何、是、在、陸、軍、武、官、一、機、作

二、下、江、ハ、同、人、ハ、何、是

MARUZEN

一平

漢口 十月二十一日 署

廣田

清水總領事

卯五〇九号

二十一日他用ヲ以テ陸軍ヲ從新ノ際九江駐大軍宛

從電第一三五号宛川、古岳、中條、蘭地代議士

一軒ト勸介在ノ会見ノ模様ニ付夫レトナリ致スルハ

張ハ延所ハ自戸一箇在ニシテ通面自其男ナリ日支開

係打關ニ関スル同大ノ意見ニハ増成セシメ現下狀態

ニテ夫レ那側ヨリ密使等ヲ派遣スル事ハ実行困難ナ

ルハト述ベ重ニ廣山ニ對シ汪及自命ノ今後如何

昭和七年

上海
本署

十二月二十一日午後
一月一日前着

犬養

重光公使

牙一四二五号

最近張公樞密、本使、對シ犬養總理、密使、ナリト

菅野氏最近到東滿洲問題ニ付、立丁リ、日、友

海、南、東、側、要、部、ト、行、ヒ、リ、ウ、ン、在、右、ハ、果、シ、テ

犬養總理、一、意、ヲ、察、ケ、日、ン、ナ、リ、ヤ、ト、一、般、問、ヲ

察、シ、日、ン、ニ、付、本、使、ハ、自、力、ハ、如、何、十、ニ、関、係、ニ、於、テ、萱

野、力、到、来、セ、リ、ヤ、ハ、承、知、セ、タ、犬養總理、力、本、使、一、承

知、セ、タ、ハ、密、使、ヲ、送、リ、日、ン、事、ハ、有、リ、錫、丹、事、ナ、リ、尤

在萱野ハ自不之對國民黨老同士トシテ種々意見
ノ交換ヲ爲ス爲ト来着也ハ与一說明ヲ爲シタル事
ニテ右ハ大善良總理ヲ承知セシ居ルハ本ニ代表ト
シテ具體的ノ年海ヲ行フ爲ニ非常事ハ明カナリト答
ヘ過キヨリ

萱野ハ陛下御意向ヲ察スルニ一ト稱シ居ルニ付其迄
事實本任多ク迄御同電ヲ請フ

十月二十日
十一月十日
十一月二十日

久養

重光乍使

一四号

一、
夢
辛巳
南京
歸來
未便
來訪
南京
一室

氣一其日改善也至此方十日新元經云今中言可觀

平
日
力
本
使
人
堂
經
二
業
シ
久
休
館
ト
シ
滿
洲
会

那側之移々思切の様鏡得々其々桑々作々下々舞々

車及具體問題
2
深入
2
今後
2
於今
1
猶未定

險々々付其邊
用心可以常事情之本使兩

報入平者ヲ
管
通年々々次知ナリ

一、然、地方團、報告、依、之、黨、院、之、南京、之、新、年、東、
京、參、謀、本部、某、氏、之、意、向、之、動、向、之、日、之、一、十、十、十、日、
正、午、通、之、南京、自、腦、部、之、任、後、之、南京、側、之、其、見、之、
依、之、滿、洲、接收、之、將、東、北、委員會、之、組織、之、並、之、之、
西山、派、之、新、崇、智、氏、之、正、之、偽、汝、霖、~~陳、仲、~~陳、仲、
字、周、西、成、(汪、精、衛、之、親、之)等、五、名、之、委員、之、之、
不、日、滿、洲、之、派、遣、之、各、手、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
系、之、電、報、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
者、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
側、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

大
美

上

村
左
事

第三号

瓜使蔡閣下。龍電報。第百四十四號。二。龍。

行
三
名
人
之
書
上
海
日
來
系
四
五
日
間
為
地

滞
在
其
間
本
官
分
名
度
在
來
訪
已
自
中
本
官
對
自

万
尖
養
總理
弓
一
應
南
京
側
一
脈
弓
貝
來
ん
可
以
ト
リ

言
之
作
之
游
來
也
日
游
第
二
年
自
下
南
京
二
自
今
年
來
一

方人多キニ依リ舊同志トシテ隔意ナキ意見ノ交換ヲ

十七 居_ん過_る中_に立_ち止_{まる}り_て日_を交_はす_る事_を多_く自_ら分_かり_て爲_す

大々節 今非久ト一趣 旨ヲ述入 際甘ンカ 少中 大養
 總知 宛一 略 號 電 報ト 稱スル 長文モ一ヲ 持 參シ 本 官ニ
 打 電 方 法ニ 付 相 談シ 來レ ン 事アリ 甘ンカ 結 局 上 海
 リ 電 報 公 司 事ト ナリ 一 行 中 一 人ハ 右ニ 持 參シ 上 海
 ニ 急 行 ン 事 実アリ

電送第二十九号

七年一月三日付文三言

重光公傳

犬養

牙

客年重光公一四二三号之関

其翌年より本人ノ希望より渡支の日の次牙十屯何等

年海等ヲ行ハシタルト云々趣旨ニ非ズシテ本人モ申シ居

る通りハ能率京側ノ服ヲ易ン為メニ過中ス從テ膏

頭貴之儀ノ被ハシ概ニ對スル應酬振ハ機宜ニ用過

タル次第ナルニ付將來モ必要ニ應ヒ右ノ同趣旨ニ

應酬セラル

大養
重光
四休
電送
卯
年
八月
廿
日
示
大養

二号

後
龍
牙
号
関

永
井
安
官

大
養
長
總
理
官
堂
以
對
之
急
退
去
才
電
有
号

二
下
下
下
右
貴
官
限
御
居
迄

七年

南京

一月六日 前着

犬養

上村 領事

第一号

陳外交部長より本官へ会見し陳平台申越せし付五日

午後六時外交部長官邸へ修訂せし起陳人安如口

開中貴官へ並野士人物か南京へ来し下り御承知

下り下り對示日々に付本官へ領門へ意味ヲ授ん存能

ト簡單に承知し居りトミ答へり起陳人言ヲ継

並野氏ハ犬養總理へ代表下し来りト下り当地に於

テ種々策動ヲ行ひ起し本官ハ本日モ政府内部内

一或る者より並野ト談合し次第ヲ計し自外支

部長トシテ面目ヲ失シヨリ自存ハ大善良總理ヲ近代の政
 治家ト考ヘ居ルハ果シテ自存ト考ハ誤ナリシヤト述
 懐モルハ付本官ハ員部ト考ハ全然誤ナラズ大善良
 總理ハ私設代表ヲ送ルカ如キト絶對ニ無之現ニ
 當座ハ嶋ヲ開キ當方ヲ為念確トルハ是ナ
 大善良總理ハ善治漢方ノ下ハ承知シ居ル模様ナ
 カ同籍代表トシテ派遣シヨルカ如キトナリ又總理ハ同
 人ハ何等モ類似ノ行動ニ出ヘントト考ヘ居ラズ
 國民黨ノ老同志ト交際雖モ為漢方セムナリ
 解シ居ルハト明カトナレリ將來モアノ下ナリ

RECEIVED

P.V.M. 37

219

MAR 71

上海
本館

一月

本日
午後
五時

芳澤外務大臣

外務省

重光公使へ

三月五日山田一語に所へ修め、十九日居心東港山田

が訪ひ南京政府内閣に訪ひ強硬論有力に

同下極力之を緩和せしめ、今滿洲艦隊

實現模様見古為一層強硬論が熾り此令言に

對し國交断絶宣言迄進みたり外無事状態に

り豫料に國交断絶件が支那一蒙の中心損害大

MARUZEN

ルヲ要意ニシカ阻止ノ努メシモ力ハ及ズルシ滿洲独立
セハ貴機ニ於テ國々ヲ断絶スヘイトテ一掃ヲ糊塗
シテ孫科居正等ノ力ニテハ大勢ヲ制カシ難キヲ知リ
恥ヲ忍ビ膝ヲ屈シテ孫科自ラ杭州ニ赴キ蔣介
石及汪精衛ノ手京ヲ促シ同人等ノ力ヲ借リ大
局ヲ維持セシト苦心シテ山田ノ内報ヲリト録シ
又十九日陳中孚ノ談トシテ山田ノ内報ヲリト録シ
ニ趣キ

又十九日陳中孚ノ談トシテ山田ノ内報スル所ニ依リハ
最モ同人等ハ寧ろ一言ヲ信シ滿洲接收委員迄

MARUZ-3

東勢力ヲ維持シ難カニハキヲ察シ右ノ旅團長ト聯
 絡シテ地方ノ独立ヲ計畫シ廣東ト呼應シテ南京
 ヲリ桂省ニ南~~方~~北~~方~~ヨリ南京政府ヲ壓シテ再々勢
 カヲ回復シ得ヘリ右南北ノ独立實現ニ滿洲獨立
 ノ國民對シテ刺戟ヲ加ヘリ然レバ後日本ト
 滿洲問題解決ヲ急ス事好都合ト思ハル也右ノ
 旅團ヲ動かスニ少リトモ一旅ニ對シテ二十萬元ヲ要
 シ全体ニ於テ約三百萬元ノ運動費ヲ要スル爲此點ニ甚
 心ツツアリト語ルニ趣キ

一、
 答
 1
 行
 勸
 2
 陶
 台
 情
 報
 左
 1
 通
 7
 答
 答
 1
 社
 美

理
自
一
庭
南
東
側
一
脈
多
見
来
へ
じ
ト
一
言
々
ア
リ
カ
ル

1 者 又 へ 才 節 今 之 非 乃
ト 1 起 皆 3 4 5 4 月 日
秘 4 月 力

通
乙
南京
首都
脑部
卜
纤维
乙
南京
侧
骨

鐵、
許、
智、
張、
潘、
陳、
仲、
宇、
周、
西

本件當
實業電
內容承
知已解

或等其ノ新員トシテ不日滿洲ニ派遣スル事
 ヲ以テ閣下ノ東亞ニ電報ヲ以テ意向問合
 中ニ趣キテ（確カ十二月二十四日、菅野氏大藏
 總理宛長女ノ婚ノ電報外務省ニ配達セラル
 付總理官邸ニ轉送セラル事案アリ）ト情報
 リト一月百本者看電アリ尙木軍部丁電
 ニハ聯合情報ヲ殊ニ在軍部丁電ハ支那
 二千如様趣旨ヲ言ヒテ已居ル事ヲ傳フ
 二、菅野氏至急歸朝セシムト肝要アリ蓋シ
 者該官意不知ら間ニ菅野氏遣返ヲ見ルニ

ハ細紀肅正ノ精神ニ及スルミナシク其意ヲ
親一如何南ノ系則ト聞ニ通接ス海關始方ニ付
今ナリ居ンタリト名ク其記各般ノ理由ニ據テ
ニ解リ極ナキ不利ナリナ前記並照一行動力事實
ニ非ナトスルヲ就ニ斯種風貌在ナリ以上並照一
支那滞在ノ経緯一理由ヲ依リ我々ニ不利ナリ
ハ今以事件ニ関脚セシ滿蒙問題一處理様ニ
付テ其一大綱ニ於テ外務、陸軍、海軍各部
事務当局ノ意見略ク此ニ居ン次第ニテ右ノ関
シテハ近ク大義總理ノ御考慮ヲ仰リ手續ヲ納

ハ答フ即チ右各都事務當局一層以之改定ハ
見ル滿蒙問題一解決ハ付今ハ地方一各都本部
ニ對スル政治關係ヲ出來得ル限リ薄弱トナ
ルシムルヲ望ム一方我々權益一回擴張ハ滿蒙
ヲ於ケル現状一地方官民又一新ノ路出スル今地方現
一政權ヲ相手トシテ行ハ看ハ既成事實ヲ依リ行
リテ肝要ナリ從テ各都本部政權ニ對シテハ滿
蒙ヲ自然ニ斷念セシムル様ニ仕向テ行キ前記既成
事實出來上リタル上ニテ之ヲ承認セシムルカ否
ハ既成事實ヲ其儘押通シ行カル外ナキ

ナリ尤モ南京政府ヨリ直接交渉開始ヲ申出サレ
場合種々トシテ正當ヨリテ即本部政權ハ相手ニ
又ト拒絶スル譯ニ行カサレ付近キ將來ニ於テ右
様ノ申出ヤル場合亦種々矢正四年ノ條約其他
一節ノ條約取極一再議定利ハ排貨ノ根絶テ
ウ國民黨トシテ到底承認シ得サレ條約ヲ結ビ出シ事
實上直接交渉開始ヲ不可能ナリトスルハ必要ナル義
方トシテ本件ニ関スル支那本部政權ト直接交渉
海ヲ約束得ル限リ遷延スルヲ肝要ナリト云々存ス
（四）目下我々先官憲ハ前記趣旨ニ依リ滿蒙各省新

政權迅速なる確立時期已程、其助力ヲ与へ居る実情
たる此際、我々之於今南京側ト一問、直接交渉
ヲ開始シ、殊ニ南京側ノ勢力ヲ滿蒙ニ持込来んカ
如キ案ヲ議さん様、ア、ア、ハカ、右新政權
ヲシテ其將來ヲ疑懼せしむ之ニ對シ多大ノ動搖
ヲ与へん
（イ）今次事件終束ニ當リ、在問ニ東ニ對シ、東ニ對シ
人ノ東ニ對シ、ト一觀念益々濃厚トナリ来レハ、事
實上カ我々之於今右機運ヲ提へ、我滿蒙ニ對シ
一極大ノ實入ルノ肝要ナルヲ云フ迄、尤、尤、知ルニ此際

我々之南系側一人は東三省に引かれ、
下ヲナカカ必ス東三省人士ノ反感ヲ買フヘシ
（此ノ際南系側ノ東三省接收委員ノ現地ニ來
リ込ミ來ント云フカ如キハ前記趣旨ニ作リ海軍新
政權ノ樹立其他既成事實ノ現出ニ銳意努メ
居ル際東軍ヲ基シテ朝鮮ニ同軍將士中右
接收ノ妨害ニ甚シキニ對シテ接收委員身
辺ニ危害ヲ加フルカ如キトハ絶無ヲ期シ難シト
認メラル